東京電力ホールディングス株式会社
汚染水対策分野
2022/6/30現在

資料１－１

汚染水対策スケジュール（1/2）

分野名	括り	廃炉中長期実行プラン２０２２目標工程	対象設備・作業内容	これまで１ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月以降	備　考
						15 22 29	5 12 19 26	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下		
汚染水対策分野		●原子炉建屋滞留水を2020年末の半分程度に低減（2022~2024年度）	建屋内滞留水	【１～４号機　滞留水移送装置】 （実績） ・１～４号機滞留水移送装置運転 （予定） ・１～４号機滞留水移送装置運転	現場作業	1～4号機滞留水移送装置設置　運転							（継続運転）	3号機 原子炉建屋滞留水水位低下[T.P.-2800目標] 実施予定（2022/6/1～） 【6/30時点水位　約T.P.-2100】 ※段階的に水位低下実施
				【α核種除去設備検討】	設計・検討	詳細設計・工事							（2023年度 工事完了予定）	
				【１～４号機　T/B床面スラッジ等の回収方法検討】	設計・検討								（2023年度 設計完了予定）	
				【滞留水一時貯留タンク設計】	設計・検討	詳細設計・工事							（2023年度 工事完了予定）	
				【プロセス主建屋・高温焼却建屋ゼオライト土嚢の検討】	設計・検討	詳細設計・工事							（2024年内 工事完了予定）	
		●汚染水発生量を100m3/日以下に抑制(2025年内)	浄化設備	【既設多核種除去設備】 【高性能多核種除去設備】 【増設多核種除去設備】 （実績） ・処理運転 （予定） ・処理運転	現場作業		処理運転（処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止）						（継続運転）	処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転 または処理停止 増設多核種除去設備 前処理設備改造に係る実施計画変更申請（2022/4/28認可）
				【サブドレン浄化設備】 （実績） ・処理運転 （予定） ・処理運転	現場作業	処理運転							（継続運転）	サブドレン汲み上げ、運用開始（2015.9.3～） 排水開始（2015.9.14～） 5/6号機サブドレンの復旧・汲み上げ・運用開始（2022.3～）
				【地下水バイパス設備】 （実績） ・運転 （予定） ・運転	現場作業	運転							（継続運転）	
				【セシウム吸着装置】 【第二セシウム吸着装置】 【第三セシウム吸着装置】 （実績） ・処理運転 （予定） ・処理運転	現場作業	処理運転							（継続運転）	2021年1月29日　吸着塔の第二セシウム吸着装置及び第三セシウム吸着装置での再利用の実施計画変更認可（原規規発第2101291号） ~~サイトバンカ建屋天井クレーン不具合事象に伴い、使用前検査工程検討中。（2022年9月～11月頃予定）~~ 使用前検査予定月：2022年 7月（第二セシウム吸着装置１号，2号） 2022年 8月（第二セシウム吸着装置3号） サイトバンカ建屋天井クレーン不具合事象（2022年6月22日）に伴い、第三セシウム吸着装置使用前検査工程再検討中。
			陸側遮水壁	（実績・予定） ・未凍結箇所補助工法は2018年9月に完了 ・維持管理運転2019年2月21日全域展開完了	現場作業	2022年4月20日　ブライン供給系統戻し、電動弁現地動作試験完了 維持管理運転（北側、南側の一部　2017/5/22～　、海側の一部　2017/11/13～、海側全域・山側の一部　2018/3/14～、山側全域2019/2/21完了）							（継続運転）	
			フェーシング（陸側遮水壁内エリア）	【凍土壁内フェーシング（全6万m^2）】 ・４号機建屋西側	現場作業	４号機建屋西側								４号機建屋西側：2023年2月完了予定
			３号機Ｒ／Ｂ 燃料取出用カバー 雨水対策　その２ （カバー南側の対策）	（予定） ・2022年6月24日　雨樋設置完了	現場作業	2022年4月　工事着手							（2022年6月24日 工事完了）	

東京電力ホールディングス株式会社
汚染水対策分野
2022/6/30現在

汚染水対策スケジュール（2/2）

分野名	括り	廃炉中長期実行プラン2022目標工程	対象設備・作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定		5月 15 / 22 / 29	6月 5 / 12 / 19 / 26	7月 上 / 中 / 下	8月 上 / 中 / 下	9月 上 / 中 / 下	10月 上 / 中 / 下	11月 上 / 中 / 下	12月以降	備　考
汚染水対策分野		●タンク関連	H4エリアNo．5タンクからの漏えい対策	（実績・予定） ・汚染の拡散状況把握	現場作業	モニタリング							（継続実施）	
			タンク解体	（予定） ・Eエリアフランジタンク解体工事 ：49基解体予定（2023年度中） ・Eエリアフランジタンク（D1・D2）内の残水回収（スラッジ含む） （実績）解体基数　46基／49基	現場作業	Eエリアフランジタンク解体工事 Eエリアフランジタンク（D1・D2）内の残水回収						（2023年3月解体完了予定）※ ※：残水回収中の2基を除く （継続実施）	2018年9月10日　Eエリアにおける中低濃度タンクの撤去等について （実施計画変更認可） D2タンク内の残水回収：2022年6月完了
			タンク設置	（予定） ・G4北エリア溶接タンク設置工事 ：6基設置予定 （実績）設置基数　6基／6基 ・G5エリア溶接タンク設置工事 ：17基設置予定 （実績）設置基数　17基／17基	現場作業	G4北エリア溶接タンク設置工事 G5エリア溶接タンク設置工事								2021年11月5日　中低濃度タンク（G4 北、G5 エリア）の設置等の実施計画変更認可（原規規発第2111054号） G4北：２０２２年６月３日使用前検査受検完了、6月21日終了証受領 G5　：２０２２年９月使用前検査受検予定
		●自然災害対策	津波対策	○日本海溝津波対策 ・日本海溝津波対策防潮堤設置 （実績・予定）　斜面補強構築工事 本体構築工事	現場作業	斜面補強・本体構築工事							（2024年3月 工事完了予定）	2024年3月完了予定 現場着手：2021/06/21開始 斜面補強部：2021年9月14日作業開始 防潮堤本体部：2022年2月15日作業開始
				○サブドレン集水設備高台機能移転 （実績・予定）ろ過水タンク西側整備工事実施 地盤改良地質調査ボーリング	現場作業	ろ過水タンク西側整備（ろ過水配管リルート工事）地盤改良工事（地質ボーリング）実施中							（2024年度初旬 工事完了予定）	
			豪雨対策	○豪雨対策 ・D排水路新設 （実績）（6月27日時点） 立坑構築工（雨発進立坑部）　75% 立坑構築工（上流側到達立坑部）80% 立坑構築工（下流側到達立坑部）92% 立坑構築工（小口径推進部）　85% MH設置工（各立坑）　40% トンネル工・推進管路付（下流側）完了 （上流部）完了	現場作業	立坑構築工事（雨発進立坑部、下流側到達立坑部、上流側到達立坑部、小口径推進部）		モニタリング関連設備現場工事				（2022年 8月 排水路工事完了予定） （2023年 2月 モニタリング設備 2系統化完了予定）	準備工事（雨発進立坑ヤード整備）：2021年2月25日開始 トンネル工事：2021/07/29開始、2021/09/16初期掘進開始、2021/9/28本掘進開始 2022/01/28に下流側掘進完了 2022/04/21に上流側掘進完了

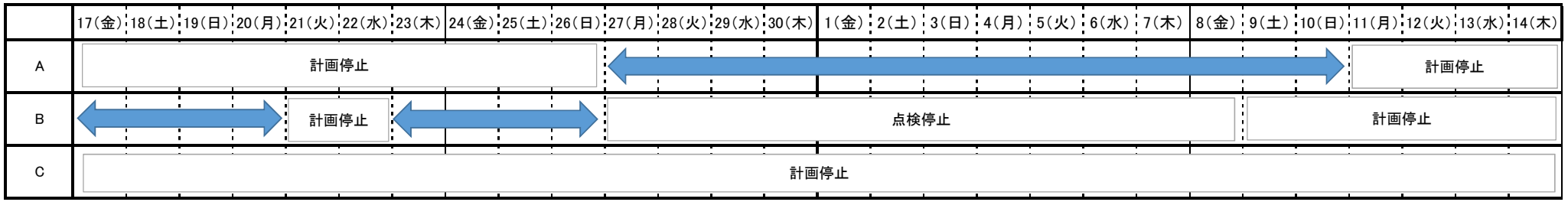
資料1-2

水処理設備の運転状況，運転計画

（2022年6月17日～2022年7月14日）

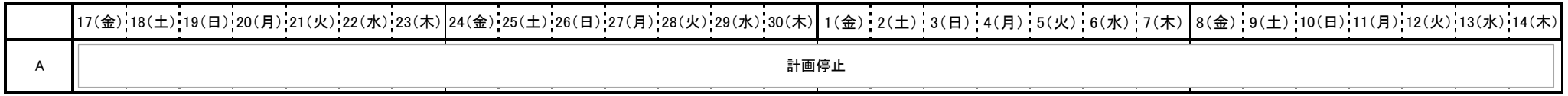
2022年7月1日
東京電力ホールディングス株式会社

既設多核種除去設備

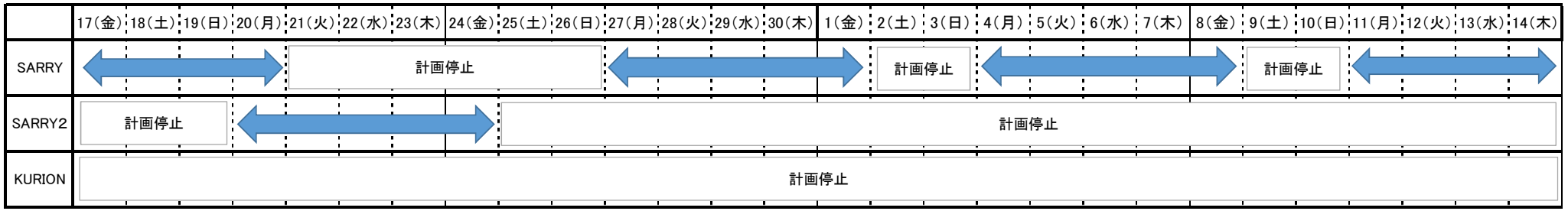


増設多核種除去設備

高性能多核種除去設備



セシウム吸着装置(KURION)，第二セシウム吸着装置(SARRY)，第三セシウム吸着装置（SARRY2）



※ 現場状況を踏まえて運転するため，計画を変更する場合があります。

無断複製・転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社 ©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

福島第一原子力発電所の滞留水の水位について

2022年7月1日

（2022年6月17日～2022年7月1日）

東京電力ホールディングス株式会社

	原子炉建屋水位					タービン建屋水位				廃棄物処理建屋水位				集中廃棄物処理施設水位		
	1号機	2号機	3号機		4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	プロセス主建屋	高温焼却炉建屋	サイトバンカ建屋
			HPCI室	トーラス室												
6月17日	-2046	-2882	-2155	-2148	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-279	707	922
6月18日	-2051	-2901	-2154	-2139	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-309	519	930
6月19日	-2055	-2882	-2159	-2141	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-306	323	938
6月20日	-2030	-2905	-2155	-2145	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-303	133	948
6月21日	-2036	-2886	-2155	-2148	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-301	31	957
6月22日	-2041	-2905	-2157	-2097	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-288	-33	962
6月23日	-2049	-2893	-2159	-2143	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-285	-100	961
6月24日	-2056	-2875	-2159	-2146	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-282	-163	961
6月25日	-2036	-2900	-2159	-2150	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-279	-45	962
6月26日	-2041	-2884	-2164	-2145	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-276	135	961
6月27日	-2041	-2907	-2164	-2146	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-272	357	961
6月28日	-2046	-2879	-2164	-2150	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-268	566	962
6月29日	-2051	-2898	-2164	-2103	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-263	522	961
6月30日	-2038	-2875	-2157	-2120	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-261	277	960
最下階床面高さ	-2666	-4796	-4796		-4796	443	-1752	-1737	-1739	-36	-1736	-1736	-1736	-2736	-2236	2358

備考欄

※ T.P.表記 （単位：mm）
※ 5時時点の水位
※ 1号機タービン建屋の滞留水処理完了（2017年3月）
※ 1号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了（2019年3月）
※ 3号機原子炉建屋水位は，南東三角コーナー水位が停滞している事から水位変動を監視するため一時的に記載（2019年7月5日～）
※ 4号機原子炉建屋の滞留水処理完了（2020年12月）
※ 2～4号機タービン建屋の滞留水処理完了（2020年12月）
※ 2～4号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了（2020年12月）
※ サイトバンカ建屋は過去に滞留水を誤って移送した経緯があり、排水したものの現状も低レベルの汚染が残っていることから、水位を監視している。
《当該建屋内の水は1～4号機建屋及び集中廃棄物処理施設（プロセス主建屋、高温焼却炉建屋）内の建屋滞留水と切り離されており、
放射能濃度も低いことから、建屋滞留水ではない。》
なお、これまでは水位計の測定下限値(約T.P.2700mm)以下まで水位低下処置し監視を行ってきたが、さらに建屋サンプの水位変動を確認するため、
2022年4月19日より水位計を移設し連続監視を行う事とした。

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社 ©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

各エリア別タンク一覧

1～4号機用汚染水貯蔵タンク　　タンク基数、水位、貯蔵量、実容量集約日　2022年6月23日

堰エリア	基数	1基あたり容量（公称）〔m3〕	タンク型	貯蔵水	H水位（mm）	H容量／基＝実容量／基（m3）	0%以下貯蔵量（m3）	0%以上貯蔵量(m3)	実容量（m3）	水位管理				放射能濃度(Bq/cc)							測定時期	概略使用開始時期
										水位(%)（最大値）	スロッシング考慮(%)	HANN(%)	HHANN(%)	Cs-134	Cs-137	Co-60	Mn-54	Sb-125	Ru-106	Sr-90		
B	10	1330	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	13674	1297	約20	12888	12975	97.2	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H30.12
	27	700	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（増設）	13272	682	約30	17735	18413	96.9	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H30.10
B南	7	1330	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（増設）	13674	1297	約10	9101	9082	97.9	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H30.10
C	26	40	鋼製角型タンク（溶接）	濃縮塩水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク撤去移動(H30.10)							—	H23.6
	52	40	鋼製角型タンク（溶接）	RO処理水(淡水)	—	—	—	—	—	—	—	—	—								—	H23.8
D	19	1000	鋼製円筒型タンク（溶接）	Sr処理水等（C）	12936	1004	約210	8853	19078	30.0	95	88.7	90	1.4E+00	5.4E+00	8.2E-02	<1.9E-02	3.1E+00	<3.5E-01	4.4E+01	H27.3	H26.8
	12	1000	鋼製円筒型タンク（溶接）	RO処理水(淡水)	12936	1004	約140	7454	12049	88.5	95	88.7	90	タンクの分析は未実施								R1.11
E	26	1000	鋼製円筒型タンク（フランジ接合）	Sr処理水等（A）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク解体中							—	H24.8
	1	1000	鋼製円筒型タンク（フランジ接合）	濃縮塩水	9880	1054	約100		1054	0.8	95	96.3	98.9	2.7E+00	8.6E+00	3.0E+00	1.4E+00	3.7E+01	1.3E+01	3.8E+04	H27.2	
G1	72	100	鋼製横置きタンク（溶接）※土中埋設	RO処理水(淡水)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク撤去移動(H31.2)							—	H24.8
	66	1356	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	10796	1322	約160	87148	87244	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								R1.11
G1南	8	1160	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（増設）	11920	1130	約20	8995	9042	97.1	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H30.4
	15	1330	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設）	13664	1296	約30	19328	19442	97.0	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H30.4
G3東	24	1000	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設）	9400	1069	約50	25547	25652	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H25.4
G3西	39	1000	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備 ※1, 2 処理済水（既設・増設）	9400	1012	約70	27590	39466	92.2	100	92.5	93.8	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H25.10
G3北	6	1000	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備 ※2 処理済水（既設）	9400	1069	約10	6374	6413	97.1	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								R2.3
G4南	26	1356	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	10796	1322	約60	34347	34369	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								R2.3
G6	38	1330	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	13674	1297	約70	48974	49303	97.2	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H31.4
G7	10	700	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設）	13415	690	約10	6693	6898	94.8	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H26.12
H1	63	1220	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設・高性能）	10539	1190	約140	74432	74969	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H27.3
H1東	24	1220	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	10539	1190	約50	28560	28560	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H28.4
H2	44	2400	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	11330	2331	約180	101271	102569	97.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H28.10
H3	10	1356	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設）	10796	1322	約20	13205	13219	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H30.11
H4北	35	1200	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	10366	1169	約80	40632	40931	97.1	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H29.7
H4南	13	1060	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（増設）	13190	1034	約20	13424	13424	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H29.12
	38	1140	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	13010	1112	約70	41991	42249	97.5	100	97.7	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H30.4
H5	32	1200	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（増設）	10368	1169	約70	37473	37423	97.9	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H30.9
H6（Ⅰ）	11	1200	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	10368	1169	約20	12873	12864	97.9	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H30.8
H6（Ⅱ）	24	1356	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	10796	1322	約60	31614	31725	97.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H30.12
H8北	5	1000	鋼製円筒型タンク（溶接）	Sr処理水等（C）	9477	1069	約10	1707	5344	31.2	100	97.7	99	1.3E-01	5.7E-01	2.7E-01	3.6E-02	6.4E+00	－	2.2E+02	H27.3	H25.4
H8南	8	1000	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備 ※2 処理済水	9477	1069	約0	0	8551	0.0	100	97.7	99	タンクの分析は未実施								現在未使用中
	3	1000	鋼製円筒型タンク（溶接）	Sr処理水等（R）	9477	1069	約10	228	3207	20.8	100	97.7	99	<5.1E-02	1.2E-01	2.1E-01	2.0E-02	3.8E+00	2.9E-01	9.1E+01	H27.3	H25.4
J1	98	1000	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備 ※1, 2 処理済水（既設・増設）	9477	1069	約220	95392	104746	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H26.1
	2	1000	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（高性能検証試験装置）	9477	1069	約0	1045	2138	95.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								
J2	42	2400	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	12151	2500	約170	103955	104999	97.4	99	97.2	98.5	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H26.9
J3	22	2400	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設・高性能）	12101	2490	約90	54207	54773	96.1	99	96.8	98.1	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H26.10
J4	30	2900	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設・高性能）	12604	2829	約130	84667	84882	98.0	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H26.10
	5	1160	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設）	11926	1131	約10	5651	5657	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H28.2
J5	35	1235	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設）	12001	1137	約70	39521	39789	92.0	94	92.2	93.5	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H26.8
J6	38	1200	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	10366	1169	約90	44179	44431	97.2	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H26.12
J7	42	1200	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設・高性能）	10366	1169	約100	48911	49108	97.5	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H27.9
J8	9	700	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設）	10747	682	約10	6126	6138	97.9	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H28.4
J9	12	700	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	10747	682	約20	8188	8183	97.9	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H28.11
K1北	12	1200	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（高性能）	10366	1169	約30	14047	14031	98.0	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H27.1
K1南	10	1160	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備 ※2 処理済水（既設・増設）	11926	1131	約20	11302	11314	97.6	100	97.7	99	タンクの分析は未実施								R3.7
K2	28	1057	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備 ※2 処理済水（既設）	12780	1032	約40	28643	28888	97.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H28.7
K3	12	700	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（増設）	13280	683	約10	8187	8195	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H28.4
K4	35	1000	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（既設・増設）	12410	972	約50	33313	34024	97.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ※3								H28.8
多核種除去設備	4	1100	鋼製円筒型タンク（フランジ接合）	多核種除去設備処理済水（既設）	9750	1103	約0	2479	4411	94.7	100	97.5	99	— ※4								H25.3
高性能多核種除去設備	3	1235	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（高性能）	12630	1199	約0	768	3598	35.4	100	98.4	99.6									H26.10
増設多核種除去設備	3	1235	鋼製円筒型タンク（溶接）	多核種除去設備処理済水（増設）	12630	1199	約0	417	3598	24.6	100	98.4	99.6									H26.9
D	10	1000	鋼製円筒型タンク（溶接）	濃縮廃液	12936	1002	約120	9090	10041	80.3	95	88.7	90	タンクの分析は未実施								H26.8
H2	3	100	鋼製横置きタンク（溶接）	濃縮廃液	—	—	—	179	281	89.9	—	93	96.5	タンクの分析は未実施								H23.8

赤字はアウトオブサービス済の基数

下線部は今回の変更箇所

※1　濃縮塩水/Sr処理水等を貯留した実績あり（G3西及びJ1の一部）

※2　Sr処理水等を貯蔵した実績のあるタンクを再利用したものを含む　再利用した基数　G3西：30、G3北：6、H8南：8、J1：8、K1南：10、K2：26

※3　多核種除去設備処理済水（ALPS処理水等）の放射能濃度について、当社「処理水ポータルサイト」に掲載のデータを参照（3ヶ月毎にデータ更新）
処理水ポータルサイトのURLは以下のとおりです。4ページ中段にある『貯蔵タンクエリア毎の放射能濃度を詳しくみる』をクリックすると、分析結果が表示されます。
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/

※4　多核種除去設備、高性能多核種除去設備、増設多核種除去設備のサンプルタンクは貯留用タンクではなく水の入れ替わりがあることから、分析対象外とする。

※実容量には、タンク底部から水位計0%の水量（DS分）を含まない。

無断複製・転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社　©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

汚染水等構内溜まり水の状況（2022.6.23時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m^3)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
1	2号機大物搬入口屋上	・2号機大物搬入口屋上	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2階】 Cs-134：<1.0E1 Cs-137：2.1E1 全β：2.6E1 H-3：1.0E2 （2015.11.2） 【1階】 Cs-134：1.1E1 Cs-137：4.0E1 全β：4.1E1 H-3：1.1E2 （2015.11.2）	
1-2	2号機R／B	2号機R／B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【上屋】 Cs-134：200～340 Cs-137：650～1100 全β：920～1900 Sr-90：10～20 H-3：ND(<100) （2015.1.16）	
2	5,6号機貯留タンク（フランジタンク）	・5,6号機貯留タンク（フランジタンク）	6号機北側	約8,000 （2022.3.24時点） **約6,800** **（2022.6.13時点）**	Cs-134：2.3E0 → **2.2E0** Cs-137：8.2E1 → **8.6E1** （2022.4.20 → **2022.5.18**）	5・6号建屋滞留水・RO処理水を貯留
3	5,6号機貯留タンク(溶接タンク)	・5,6号機貯留タンク(溶接タンク)	6号機北側	約5,500 （2022.3.24時点） **約5,400** **（2022.6.13時点）**	Cs-134：7.7 Cs-137：4.3E1 （2016.10.3）	5・6号建屋滞留水を貯留
4-2	吸着塔一時保管施設	水処理二次廃棄物 （SARRY、KURION、ALPS処理カラム、モバイル式処理装置）	吸着塔一時保管施設（第一施設、第四施設）	1程度（1基あたり）	Cs-137：2.0E3～1.6E7 Sr-90：5.3E3～4.3E7 （2017.2～2017.3）	
7	濃縮水タンク （蒸発濃縮装置濃廃水）	蒸発濃縮装置濃縮水用ノッチタンク （スラリー／濃縮水）	タンクエリア （Cエリア）	約65※1 （2019.2.1時点）	【蒸発濃縮装置濃廃水】 Cs-134：1.7E4 Cs-137：2.5E4 全β：4.7E8 （2011.12.20）	蒸発濃縮装置濃縮水を貯留 ※1：全5タンクの水量を実測して算出
9	5，6号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット	・6号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	6号機スクリーン近傍	約850	Cs-134：ND Cs-137：1.8E0 （2022.2.1）	
		・5号機逆洗弁ピット	5号タービン建屋海側	約1,500	Cs-134：3.0E0 Cs-137：1.9E1 （2016.10.3）	
		・6号機逆洗弁ピット	6号タービン建屋海側	約1,500	Cs-134：1.5E0 Cs-137：1.1E1 （2016.10.3）	
10	1～4号機T／B屋根	・1号機T／B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【1号機T/B上屋】 Cs-134：2.4E1 → **6.4E1** Cs-137：8.3E2 → **2.6E3** （2022.3.18 → **2022.5.26**） 全β：4.4E1 （2020.7.29）	
		・2号機T／B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2号機T/B上屋】 Cs-134：ND → **ND** Cs-137：1.1E2 → **1.2E2** （2022.3.18 → **2022.5.26**） 全β：8.9E0 （2020.7.29）	
11	1号CSTタンク （溶接タンク）	・1号CSTタンク （溶接タンク）	屋外（建屋エリア）	約740 （2016.10.26）	Cs-134：2.9E+4 Cs-137：1.9E+5 全β：2.2E+5 （2016.11.7）	RO処理水を貯留
12	2号CSTタンク （溶接タンク）	・2号CSTタンク （溶接タンク）	屋外（建屋エリア）	約1,560 （2022.3.22）	【CST入口水（淡水化装置出口水）】 H-3：2.3E5 → **3.7E5** Sr-90：ND → **ND** （2022.3.14 → **2022.5.6**） 【2号CSTタンク貯留水】 Cs-134：1.6E+02 Cs-137：1.7E+03 （2018.12.14） 全β：1.5E+03 （2018.12.19）	2020.3.18より1～3号機炉注水源としての運用開始
13	3号CSTタンク （溶接タンク）	・3号CSTタンク （溶接タンク）	屋外（建屋エリア）	約1,980 （2022.3.22）	【3号CSTタンク貯留水】 Cs-134：1.9E+2 Cs-137：3.5E+3 全β：6.3E+3 H-3：7.5E+5 （2020.7.16）	RO処理水を貯留 1～3号機炉注水源
15	地下貯水槽	地下貯水槽No. 1	タンクエリア	－	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β：1.3E6 （2018.9.12） （参考：漏えい検知孔水） 全β：1.4E4 → **6.3E3** （2022.4.5 → **2022.6.7**） H-3：ND （2019.9.4）	水位計の計測限界水深未満（一部残水あり） （2018.9.26時点）

汚染水等構内溜まり水の状況（2022.6.23時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m^3)	放射性物質濃度[Bq/L]			備考
16	地下貯水槽	地下貯水槽No. 2	タンクエリア	－	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β：3.1E6 (2018.9.12) （参考：漏えい検知孔水） 全β： H-3：	 1.6E4 (2022.4.6) ND (2019.9.4)	 **8.4E3** **(2022.6.8)**	水位計の計測限界水深未満（一部残水あり） (2018.9.26時点)
17	地下貯水槽	地下貯水槽No. 3	タンクエリア	－	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β：3.2E6 (2018.9.11) （参考：漏えい検知孔水） 全β： H-3：	 1.3E4 (2022.2.15) ND (2019.9.5)	 **8.5E3** **(2022.6.10)**	水位計の計測限界水深未満（一部残水あり） (2018.9.26時点)
18	地下貯水槽	地下貯水槽No. 4	タンクエリア	－	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β：2.8E4 (2018.9.12)			水位計の計測限界水深未満（一部残水あり） (2018.9.26時点)
20	地下貯水槽	地下貯水槽No. 6	タンクエリア	－	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β：7.8E6 (2018.9.11) （参考：漏えい検知孔水） 全β：4.5E1 (2019.9.5) H-3：ND (2019.9.5)			水位計の計測限界水深未満（一部残水あり） (2018.9.26時点)
21	地下貯水槽	地下貯水槽No. 7	タンクエリア	－	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β：1.5E2 (2018.9.12)			水位計の計測限界水深未満（一部残水あり） (2018.9.26時点)
22	1-4号建屋接続トレンチ	・1号機コントロールケーブルダクト ・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト（2号機廃棄物系共通配管ダクト） ・1号機薬品タンク連絡ダクト 等	1～4号機周辺	約4～170 (2020.12) **約1～170** **(2022.1)**	Cs-134： Cs-137： 全β： H-3：	ND～3.2E2 9.6E1～7.6E3 9.6E1～8.0E3 1.0E2～6.5E3 (2020.12)	**ND～2.5E2** **1.4E2～8.3E3** **1.4E2～7.7E3** **ND～7.6E2** **(2022.1)**	**量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1)「2021年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照**
23	2～4号機DG連絡ダクト	・2～4号機DG連絡ダクト	2～4号機山側	約1,600 (2020.12) **約1,600** **(2022.1)**	Cs-134： Cs-137： 全β： H-3：	ND 9.3E1 1.1E2 ND (2022.1.13)		
24-1	1号機海水配管トレンチ	・1号機海水配管トレンチ	1号機タービン建屋海側	約400 (2020.12) **約410** **(2022.1)**	Cs-134： Cs-137： 全β：	ND 4.1E1 4.5E1 (2022.1.13)		
26	3号機起動用変圧器ケーブルダクト	・3号機起動用変圧器ケーブルダクト	3号機山側	約830 (2020.12) **約830** **(2022.1)**	Cs-134：4.8E1 Cs-137：4.0E2 全β： 4.4E2 H-3： ND (2017.10)			
28	1-4号建屋未接続トレンチ	・2号機変圧器防災用トレンチ ・消火配管トレンチ（3号機東側） ・1号機主変圧器ケーブルダクト ・1号機廃液サージタンク連絡ダクト ・1号機オフガス配管ダクト 等	1-4号機周辺	約1～830 (2018.12) **約6～830** **(2022.1)**	Cs-134： Cs-137： 全β： H-3：	ND～2.3E1 7.0E0～2.7E2 5.4E1～7.2E2 ND～1.7E3 (2018.11～2019.1)	**ND～1.0E1** **1.1E1～2.5E2** **1.9E1～2.5E2** **ND** **(2022.1)**	**量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1)「2021年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照**
29	1～4号機サブドレンピット No.15,16(未復旧ピット)	・サブドレンピットNo.15,16	1～4号機周辺 「未復旧」	約20	【No.16】 Cs-134： Cs-137： 全β： H-3：	 2.3E3 8.0E4 9.8E4 ND (2022.3.11)	 **5.6E3** **2.1E5** **2.1E5** **3.5E3** **(2022.5.9)**	
30	その他1～4号機サブドレン（ディープウェル含む）（未復旧ピット）	・1号機～4号機サブドレン	1～4号機周辺 「未復旧」	約15/ピット	【No.47,48】 Cs-134：ND～3.9E1 Cs-137：4.8E1～9.6E1 全β：7.9E1～2.8E2 H-3：ND (2014.11.10)			
32	1号機放水路 （出口を閉塞済）	・1号機放水路 （出口を閉塞済）	1～4号タービン建屋海側	約4,200 (2018.12.17) **約5,220** **(2022.1)**	【放水路上流側立坑】 Cs-134： Cs-137： 全β： H-3：	 5.7E1 1.9E3 2.3E3 ND (2022.5.16)	 **3.9E1** **1.5E3** **2.0E3** **ND** **(2022.6.20)**	**量について、これまで土砂で埋まっていると想定し水が無いと評価していた放水口部分の水量を追加して保守的に評価** **(2022.6.30)**
33	2号機放水路 （出口を閉塞済）	・2号機放水路 （出口を閉塞済）	2－4号機タービン建屋海側	約3,600 (2018.12.14) **約5,350** **(2022.1)**	【放水路上流側立坑】 Cs-134： Cs-137： 全β： H-3：	 2.5E1 8.4E2 1.2E3 ND (2022.5.16)	 **1.4E1** **5.2E2** **1.1E3** **ND** **(2022.6.20)**	
34	3号機放水路 （出口を閉塞済）	・3号機放水路 （出口を閉塞済）	3－4号機タービン建屋海側	約1,600 (2018.12.17) **約3,360** **(2022.1)**	Cs-134： Cs-137： 全β： H-3：	1.3E1 5.6E2 7.7E2 1.9E2 (2022.4.13)	**2.6E1** **6.5E2** **8.2E2** **1.4E2** **(2022.5.11)**	
35	キャスク保管建屋	・キャスク保管建屋	物揚場 西側	約4,500	Cs-134： Cs-137： I-131： Co-60： 全γ放射能： 全β放射能：	7.2E0 2.3E1 ND ND 3.1E1 － (2014.5.23)		
36	5号CSTタンク （溶接タンク）	・5号CSTタンク （溶接タンク）	屋外（建屋エリア）	約1000 (2022.3.24)	Cs-134： Cs-137： Co-60：	ND ND 9.6E1 (2022.4.11)	**ND** **ND** **7.7E1** **(2022.5.10)**	プラント保有水を貯留

汚染水等構内溜まり水の状況（2022.6.23時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量（m^3）	放射性物質濃度[Bq/L]			備考
37	6号CSTタンク （溶接タンク）	・6号CSTタンク （溶接タンク）	屋外（建屋エリア）	約1650 （2022.3.24）	Cs-134： Cs-137： Co-60：	ND ND 1.2E1 （2022.4.13）	**ND** **ND** **ND** **（2022.5.13）**	プラント保有水を貯留
38	5/6号他 トレンチ	・5号機海水配管トレンチ ・5・6号機ストームドレン配管トレンチ ・5号機重油配管トレンチ（東側） ・5号機放射性流体用配管ダクト ・5号機主変圧器ケーブルダクト 等	5～6号機周辺	約1～1,900 （2015.10～2016.1） **約1～1,870** **（2022.1）**	Cs-134： Cs-137：	ND～2.2E2 ND～9.9E2 （2015.10～2016.1）	**ND～1.7E0** **ND～5.1E1** **（2022.1）**	**最及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1)「2021年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照**
40	キャスク保管建屋サブドレン	・キャスク保管建屋サブドレン	物揚場 西側	約15/ピット	Cs-134：1.0E+1 Cs-137：1.4E+1 Co-60：<6.0E-01 全γ放射能：2.4E+1 （2012.1.18）			
41	SPTタンク（1～4号）（A） （溶接タンク）	・SPTタンク（1～4号）（A） （溶接タンク）	SPT建屋	約2,800 （2015.3.25時点）	Cs-134：8.0E+4 Cs-137：1.6E+5 Co-60：6.5E+2 （2013.8.27）			プラント保有水等を貯留
42	集中ラド周りサブドレン	・集中ラド周りサブドレン	主プロセス建屋等 各建屋周辺	約15/ピット	Cs-134： Cs-137：	ND ND～3.5E1 （2022.5.18）	**ND** **ND～2.5E1** **（2022.6.22）**	
44	純水タンクNo.1	・純水タンク	屋外（建屋エリア）	約850	Cs-134： Cs-137： 全β： H-3：	2.1 7.2 12.2 ND （2015.5.29）		震災後、坂下ダム補給水を貯留
45	5/6号機建屋滞留水	・5/6号機建屋滞留水	5～6号機	約8,500 （2022.3.24時点） **約10,100** **（2022.6.16時点）**	【5号機】 Cs-134： Cs-137： 全β： H-3： 【6号機】 Cs-134： Cs-137： 全β： H-3：	ND 7.7E-1 ND ND （2022.4.21） ND 1.4E0 ND 1.6E2 （2022.4.22）	**ND** **9.9E-1** **ND** **ND** **（2022.5.19）** **ND** **1.4E0** **ND** **ND** **（2022.5.20）**	
46	排気筒ドレンサンプピット	・1/2号排気筒ドレンサンプピット	1～4号機周辺	約0.3※ ※適宜溜まり水の移送を実施	Cs-134： Cs-137： 全β：	6.2E4 2.1E6 2.1E6 （2022.3.29）	**5.8E4** **2.2E6** **4.3E6** **（2022.4.26）**	2019.10.12以降、水位低下傾向が確認された。 (2019.11.27) 2022.3.29の調査で流入箇所を特定したことから、今後流入抑制対策を実施していく。 (2022.4.27)
		・3/4号排気筒ドレンサンプピット	1～4号機周辺	約2	Cs-134： Cs-137： 全β：	1.5E1 5.7E2 6.5E3 （2022.3.31）		
		・5/6号排気筒ドレンサンプピット	5/6号機周辺	約7.6 （2020.3.12）	Cs-134： Cs-137： 全β：	ND 9.5E0 ND （2022.3.30）		
		・集中RW排気筒ドレンサンプピット	1～4号機周辺	約10	Cs-134： Cs-137： 全β：	1.3E1 3.0E2 2.7E2 （2022.2.16）		
47	固体廃棄物貯蔵庫（6～8号棟）	固体廃棄物貯蔵庫（6～8号棟）	固体廃棄物貯蔵庫 （6～8号棟）	約200	Cs-134：ND Cs-137：5.3E+1 全β：4.8E+1 （2017.11.10）			

建屋内における残水等の状況について

東京電力ホールディングス株式会社
2022/6/3

No.	号機	建屋	対象エリア	区分	区分の判断日※1	運用目標値／基準値(mm)	測定頻度	今回			1回前			2回前			最終排水実績	排水計画	床面(mm)	水位計の有無	水位調整不可能予定時期	備考
								確認日	水位	1回前との水位差(mm)	確認日	水位	2回前との水位差(mm)	確認日	水位	3回前との水位差(mm)						
1	1号機	T/B	電気マンホールNo.1	排水完了エリア	2017/7/5	T.P. 3,023	1回/月	2022/5/9	測定下限値以下	–	2022/4/11	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2019/10/28	–	T.P. 1,743	無	完了済	大雨警報発報時に，マンホール上部に水たまりや流入経路は目視にて確認できなかった。
			電気マンホールNo.2	排水完了エリア	2017/7/5	T.P. 2,293	1回/月	2022/5/9	測定下限値以下	–	2022/4/11	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2021/10/26	–	T.P. 1,743	無	完了済	大雨警報発報時に，マンホール上部に水たまりや流入経路は目視にて確認できなかった。
2			主油タンク室	排水完了エリア	2017/7/5	T.P. 3,463	1回/月	2022/5/9	測定下限値以下	–	2022/4/11	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 3,443	無	完了済	
3			復水脱塩装置樹脂貯蔵タンク室	排水完了エリア	2017/7/27	T.P. 2,063	1回/3ヶ月	2022/4/11	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2022/2/7	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 2,043	無	完了済	
4			ハウスボイラ室	排水完了エリア	2017/7/11	T.P. 2,250	1回/月	2022/5/9	測定下限値以下	–	2022/4/11	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2021/9/7	–	T.P. 943	有（露出）	完了済	
5			ディーゼル発電機(B)室	排水完了エリア	2017/7/19	T.P. 1,926	1回/月	2022/5/9	測定下限値以下	–	2022/4/11	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2021/9/15	–	T.P. 543	有（露出）	完了済	
6			床ドレンサンプ	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	–	1回/日	2022/5/12	T.P. -721	–	2022/4/14	T.P. -711	–	2022/3/10	T.P. -306	–	–	–	–	有	完了済	
7			機器ドレンサンプ	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	–	1回/日	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	—	–	–	–	無	完了済	
8			復水ポンプ配管トレンチ	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	–	1回/日	2022/5/12	T.P. 5	–	2022/4/14	T.P. -152	–	2022/3/10	T.P. -34	–	–	–	T.P. -857	有	完了済	水位は仮設水位計にて計測
9			復水ポンプピット(A)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	–	1回/日	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	–	–	–	無	完了済	
			復水ポンプピット(B)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	–	1回/日	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	–	–	–	無	完了済	
			復水ポンプピット(C)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	–	1回/日	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	–	–	–	無	完了済	
10			給水加熱器ドレンポンプピット(A)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	–	1回/日	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	–	–	–	無	完了済	
			給水加熱器ドレンポンプピット(B)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	–	1回/日	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	–	–	–	無	完了済	
11		Rw/B	LDT室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/9	測定下限値以下	–	2022/4/11	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. -36	有（露出）	完了済	
12			FSST室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/9	T.P. 64	10	2022/4/11	T.P. 54	0	2022/4/7	T.P. 54	0	2022/3/8	–	T.P. -36	有（露出）	完了済	
13			OGST室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/9	測定下限値以下	–	2022/4/11	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. -36	有（露出）	完了済	
14			床ドレンサンプ(A)	床面以下に貯留する残水	2019/4/22	–	1回/日	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	–	–	–	無	完了済	
15			床ドレンサンプ(B)	床面以下に貯留する残水	2019/4/22	–	1回/日	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	–	–	–	無	完了済	
16			高電導度廃液サンプ	床面以下に貯留する残水	2019/4/22	–	1回/日	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	—	測定困難※3	–	–	–	–	無	完了済	
17	2号機	T/B	低圧復水ポンプエリア	建屋貯留水	–	–	–	2022/5/12	測定困難※4	–	2022/4/14	測定困難※4	–	2022/3/10	測定困難※4	–	–	–	T.P. -1,752	無	—	復水器エリアと連通性有※2
18			C/B(バッテリー室)	排水完了エリア	2018/1/31	T.P. 1,599	1回/月	2022/5/10	測定下限値以下	–	2022/4/12	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2018/1/26	–	T.P. 448	無	完了済	
19			C/B(電気品室)	排水完了エリア	2018/1/18	T.P. 1,644	1回/月	2022/5/10	測定下限値以下	–	2022/4/12	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2018/1/15	–	T.P. 448	有（露出）	完了済	
20			バッチ油タンク室	排水完了エリア	2018/3/26	T.P. 1,668	1回/月	2022/5/10	測定下限値以下	–	2022/4/12	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2021/9/9	–	T.P. 448	有（露出）	完了済	
21			スイッチギア室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/10	測定下限値以下	–	2022/4/12	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 448	有（露出）	完了済	
22			南西エリア	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/10	測定下限値以下	–	2022/4/12	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 448	有（露出）	完了済	
23			CD室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/10	測定下限値以下	–	2022/4/12	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 448	有（露出）	完了済	
24			消火ポンプ室(水位計設置個所)	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/10	測定下限値以下	–	2022/4/12	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2020/9/16	–	T.P. 448	有（露出）	完了済	
			消火ポンプ室(ポンプ設置個所)	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/10	測定下限値以下	–	2022/4/12	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2020/6/29	–	T.P. 448	無	完了済	
25			ディーゼル発電機(A)室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/10	測定下限値以下	–	2022/4/12	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 448	有（露出）	完了済	
26			電気油圧式制御装置室 ※5	建屋貯留水	–	–	–	2018/1/31	測定下限値以下	–	2018/1/31	測定下限値以下	–	–	–	–	–	–	T.P. 448	無	—	復水器エリアと連通性有※2
27	3号機	T/B	T/B地下階北東廊下 ※5	建屋貯留水	–	–	–	2017/12/25	測定下限値以下	–	2017/12/25	測定下限値以下	–	–	–	–	–	–	T.P. 463	無	—	復水器エリアと連通性有※2
28			南西エリア	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/11	測定下限値以下	–	2022/4/13	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 463	有（露出）	完了済	
29			CD室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/11	測定下限値以下	–	2022/4/13	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 463	有（露出）	完了済	
30			ディーゼル発電機(A)室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/11	測定下限値以下	–	2022/4/13	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 463	有（露出）	完了済	
31			ディーゼル発電機(B)室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/11	測定下限値以下	–	2022/4/13	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 463	有（露出）	完了済	
32			電気油圧式制御装置室	排水完了エリア	2018/2/2	T.P. 1,725	1回/月	2022/5/11	測定下限値以下	–	2022/4/13	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2019/6/14	–	T.P. 463	無	完了済	
33			消火ポンプ室	排水完了エリア	2018/3/20	T.P. 1,644	1回/月	2022/5/11	測定下限値以下	–	2022/4/13	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2022/2/15	–	T.P. 463	有（露出）	完了済	
34			バッチ油タンク室	排水完了エリア	2018/3/20	T.P. 1,665	1回/月	2022/5/11	測定下限値以下	–	2022/4/13	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2020/10/6	–	T.P. 463	有（露出）	完了済	
35			C/Bエリア	建屋貯留水	–	–	1回/日	2022/5/12	測定下限値以下※6	–	2022/4/14	測定下限値以下※6	–	2022/3/10	測定下限値以下※6	–	2020/10/2	–	T.P. -1,737	有	完了済	継続した水位上昇を確認。 継続して排水する措置を実施済み。
36	4号機	T/B	C/B（バッテリー室）	排水完了エリア	2018/2/15	T.P. 1,683	1回/月	2022/5/12	測定下限値以下	–	2022/4/14	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2018/1/24	–	T.P. 461	有（露出）	完了済	
37			C/B（電気品室）	排水完了エリア	2018/2/15	T.P. 1,636	1回/月	2022/5/12	測定下限値以下	–	2022/4/14	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2018/10/23	–	T.P. 461	有（露出）	完了済	
38			バッチ油タンク室	排水完了エリア	2018/3/23	T.P. 1,622	1回/月	2022/5/12	測定下限値以下	–	2022/4/14	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	2020/10/14	–	T.P. 461	有（露出）	完了済	
39			M/Cエリア	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/12	測定下限値以下	–	2022/4/14	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 461	有（露出）	完了済	
40			南西エリア	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/12	測定下限値以下	–	2022/4/14	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 461	有（露出）	完了済	
41			ディーゼル発電機(A)室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2022/5/12	測定下限値以下	–	2022/4/14	測定下限値以下	–	2022/3/17	測定下限値以下	–	–	–	T.P. 461	有（露出）	完了済	
42			電気油圧式制御装置室 ※5	建屋貯留水	–	–	–	2018/1/12	測定下限値以下	–	2018/1/12	測定下限値以下	–	–	–	–	–	–	T.P. 461	無	–	復水器エリアと連通性有※2

※1：現状の滞留水水位より床面が低く、将来的な水位低下によって孤立すると想定されるエリアについては、運転上の制限（建屋滞留水＜サブドレン水位）を満足する時期で調査を行い、区分分けするように計画する。
※2：2018/3/8,2018/4/24 面談資料参照。
※3：1号機タービン建屋は、現在、床ドレンサンプ内で水位管理を行っているため、T.P.443として管理（2018/4/6面談資料参照）
※4：連通のある復水器エリアは、連通高さ(T.P.-1527mm)以下にある床ドレンサンプで水位を制御しているため、連通高さを超えてから水位を記載する。
※5：床面露出。中間地下階のため、再冠水の可能性は低い。
※6：床面露出。床面(T.P.-1737mm)以下にあるストームドレンサンプで水位を制御しているため、床面高さを超えてから水位を記載する。

2022/5/12 0:00 時点の各建屋水位

	1号機			2号機			3号機			4号機		
建屋	R/B	Rw/B	T/B※6	R/B	Rw/B	T/B	R/B	Rw/B	T/B	R/B	Rw/B	T/B
滞留水の水位	T.P. -2,035	除去完了	除去完了	T.P. -2,808	除去完了	除去完了	T.P. -2,043	除去完了	除去完了	除去完了	除去完了	除去完了
周辺サブドレン設定値	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650

※6：1号機T/Bの最下階の床レベルはT.P.443mm

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.
無断複製・転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社

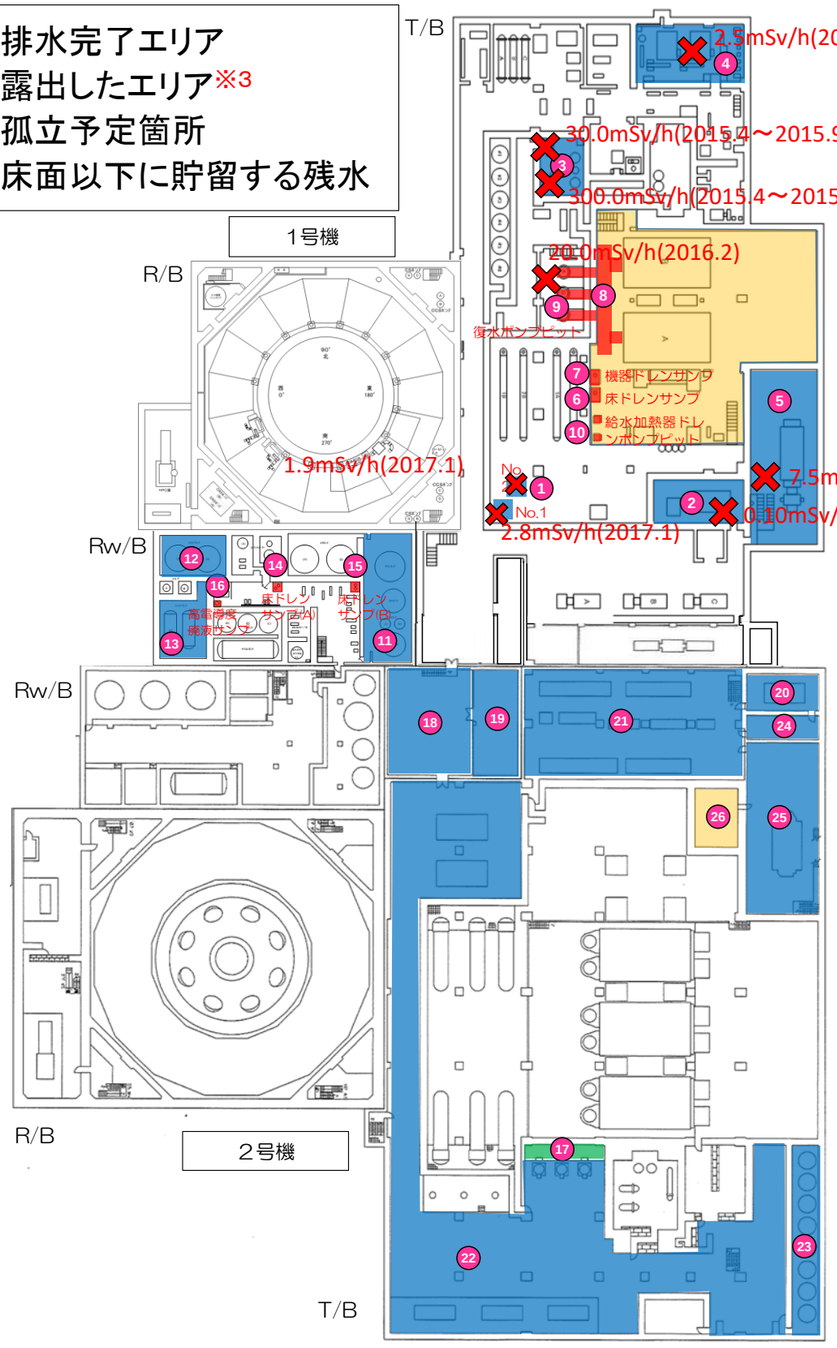
各建屋地下エリアの滞留水貯留状況

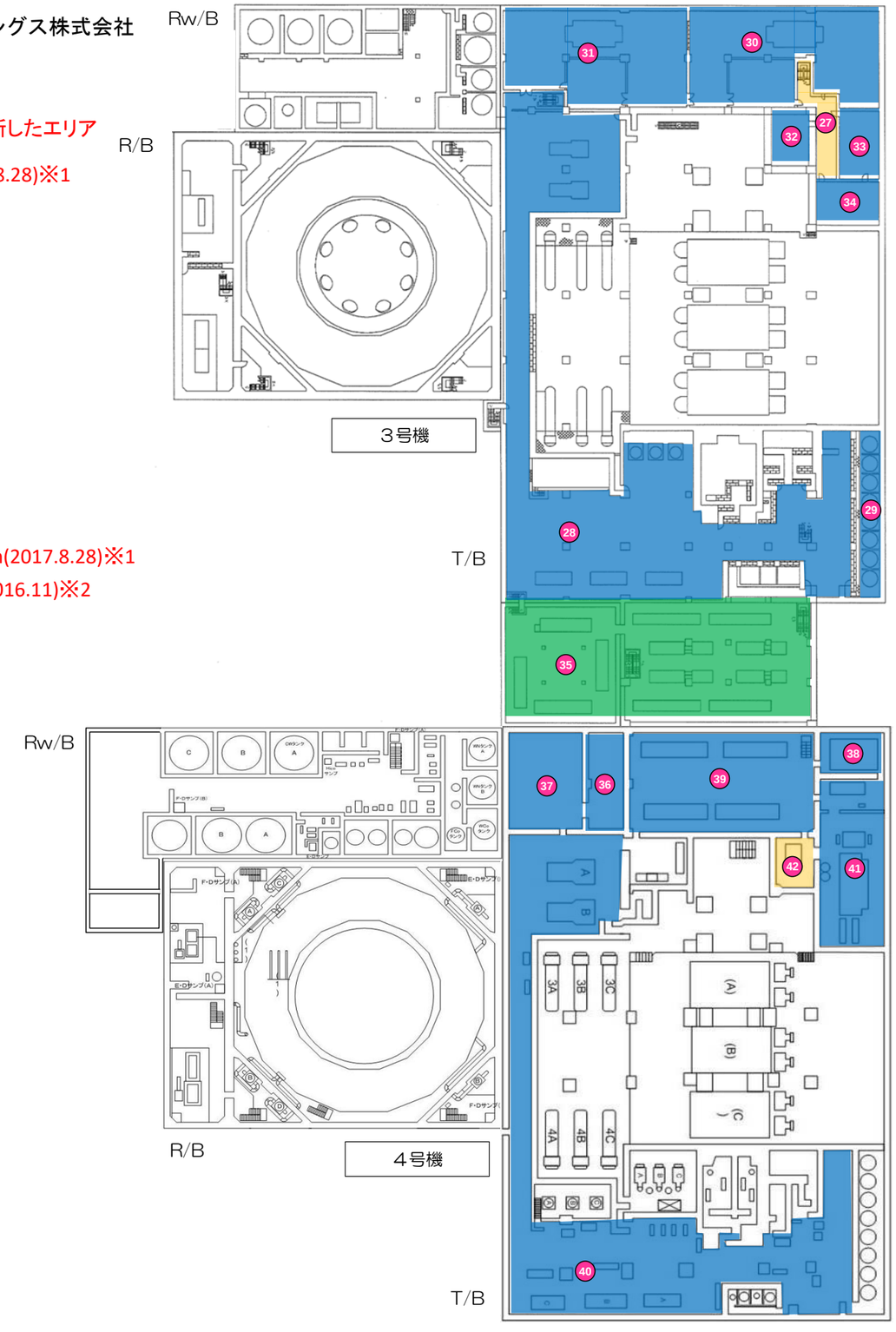
最終更新：2020/2/8
東京電力ホールディングス株式会社

水位安定エリア等については線量測定が実施出来た場合、測定結果を記載している。
※1：1階床面より3m程度挿入した箇所で測定
※2：作業エリアである1階床面で測定
※3：孤立すると予想したエリアだが連通が確認されたため、建屋に貯留する滞留水のままと判断したエリア

※

- ：排水完了エリア
- ：露出したエリア※3
- ：孤立予定箇所
- ：床面以下に貯留する残水





©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.
無断複製・転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社

東京電力ホールディングス株式会社
2022年7月1日

福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

実施計画記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量※1,11,12	保管容量※1,12	管理方法 実施内容※9	管理方法 頻度	主要核種
Ⅲ 第１編 39条 第２編 87条の２	瓦礫類	・地震、津波、水素爆発により飛散した瓦礫 ・フォールアウトにより汚染した設備・資機材で廃棄する物（建屋、制御盤、廃車両等） ・設備の点検・工事により発生する交換品等（ポンプ、バルブ、配管、フランジタンク等） ・設備運転に伴い発生する消耗品等（空調フィルタ等） ・工事等のため構内に持ち込んだ消耗品（梱包材、型枠、セメント用空袋等） ・回収した土壌	屋外	・屋外集積（～0.1mSv/h）	233,700 m³ [−500 m³]	266,300 m³ (299,000 m³)	・人が容易に立ち入れないよう区画	—	Cs-137 Cs-134 等※7
				・シート養生（～1mSv/h）	47,400 m³ [+800 m³]	50,700 m³ (77,400 m³)	・巡視を行い、容器の転倒、落下や養生シートに破れがないこと、その他異常が無いことを確認	週1回	
				・覆土式一時保管施設、容器収納（1mSv/h～30mSv/h）	16,800 m³ [−100 m³]	17,900 m³ (18,500 m³)	・空間線量率を測定し表示	週1回	
			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納	27,700 m³ [微増 m³]	39,600 m³ (64,700 m³)	・空気中の放射性物質濃度を測定	6ヶ月に1回※2	
			瓦礫類の合計		325,600 m³ [+200 m³]	374,400 m³ (459,500 m³)	・槽内の溜まり水の有無を確認（覆土式一時保管施設）	週1回	
	使用済保護衣等	・タイベック ・下着類 ・ゴム手袋 ・その他保護衣、保護具	屋外	・容器収納	30,300 m³ [+700 m³]	52,500 m³ (58,700 m³)	・煙、水蒸気、濁り水（黒・茶色）、空気の揺らぎが発生していないこと（屋外集積の伐採木）	週1回※3	
			建屋	・袋詰め					
	伐採木	・枝葉根	屋外	・伐採木一時保管槽	37,300 m³ [0 m³]	41,600 m³	・伐採木一時保管槽における温度監視	週1回※3	
		・幹根		・屋外集積	1,400 m³ [+300 m³]	6,000 m³	・保管量を確認し、保管容量が確保されていることを確認	月1回	
					94,700 m³ [−6,900 m³]	128,000 m³			
		—	伐採木の合計		133,400 m³ [−6,600 m³]	175,600 m³ (175,600 m³)	—		
Ⅲ 第1編 40条 第２編 87条の３	水処理二次廃棄物（水処理により放射性物質を濃縮した廃棄物）	・凝集沈殿物	廃ｽﾗｯｼﾞ貯蔵施設	・造粒固化体貯槽【除染装置】	422 m³ [0 m³]	700 m³	・免震重要棟にて液位を監視し，漏えいの有無を監視	常時	Cs-137 Cs-134 Sr-90等
		・吸着材（前置フィルタ含む）	使用済セシウム吸着塔一時保管施設	・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約13mSv/h）	4,006 本 [+15 本]	4,192 本	・人が容易に立ち入れないよう区画	—	
							・空間線量率を測定し表示	—	
				・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約23mSv/h）			・巡視を行い，コンクリート製ボックスカルバート等に異常が無いことを確認	—	
				・吸着塔【第二セシウム吸着装置、第三セシウム吸着装置、高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約1.2mSv/h）	391 本 [+1 本]	584 本			
				・処理カラム【多核種除去設備】（最大約0.2mSv/h）					
				・吸着塔【セシウム吸着装置、モバイル式処理装置、モバイル型Sr除去装置、第二モバイル型Sr除去装置、サブドレン他浄化装置、高性能多核種除去設備検証試験装置】（最大約250mSv/h）	978 本 [0 本]	1,596 本	・貯蔵量を確認し、貯蔵可能容量が確保されていることを確認	週1回	
				・容器収納【モバイル型Ｓｒ除去装置】（最大約0.5mSv/h）					
		・フィルタ	屋外	・容器収納【高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約0.5mSv/h）	瓦礫類に含む		瓦礫類と同様	—	
			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【サブドレン他浄化装置】					
				・容器収納【雨水処理設備等】（1mSv/h未満）					
		・RO装置のフィルタ類	屋外	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h）	瓦礫類に含む		瓦礫類と同様	—	
		・樹脂	固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h）	瓦礫類に含む		瓦礫類と同様	—	
				・容器収納【雨水処理設備等】（最大2mSv/h）					

無断複製・転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社

福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

東京電力ホールディングス株式会社
2022年7月1日

実施計画記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量※1, 11, 12	保管容量※1, 11, 12	管理方法		主要核種
							実施内容※9	頻度	
Ⅲ 第１編 38条 第2編 87条	放射性固体廃棄物等	・震災前に発生した放射性固体廃棄物	固体廃棄物貯蔵庫	・ドラム缶収納	ドラム缶 175,661 本	ドラム缶 （ 約318,500 本相当 ）	・巡視による保管状況の確認及び保管量の確認	月1回	Co-60等
				・その他	ドラム缶 10,155 本				
		・震災後に発生した放射性固体廃棄物（焼却灰等）		・ドラム缶収納、ボックスコンテナ収納	2,775 本 [+28 本]				
		・使用済制御棒等	サイトバンカ	・水中保管	12,125 本 193 m^3 ※4	—	・事故前の保管量の推定値により確認	3ヶ月に1回	
							・プール水位の確認	月1回	
		・イオン交換樹脂、造粒固化体	タンク等	・タンク等に貯蔵	3,546 m^3 ※5	—	・貯蔵量の確認※8	3ヶ月に1回	
							・貯蔵状況の確認※8	タンクにより異なる	
		・使用済制御棒等	使用済燃料プール	・水中貯蔵	11,422 本 ※6	—	・使用済燃料共用プールの巡視	月1回	
							・使用済燃料共用プールの貯蔵量の確認	3ヶ月に1回	
—※10	瓦礫等	・回収した瓦礫等	屋外	・屋外集積、シート養生、容器収納、雨水等侵入防止養生	—	65,100 m^3 [微減 m^3]	・人が容易に立ち入れないよう区画 ・空間線量率を測定し表示	—	Cs-134 Cs-137 等
			建屋	・屋内集積、シート養生、容器収納、雨水等侵入防止養生	—	800 m^3 [微増 m^3]			
	水処理二次廃棄物	・樹脂、ゼオライト、RO膜等	－	・容器収納、容器収納の上 シート養生	—	100 m^3 [0 m^3]			Cs-137 Cs-134 Sr-90等
			仮設集積の合計		—	66,000 m^3 [微減 m^3]			

※１　瓦礫類、使用済保護衣等、伐採木、仮設集積物、震災後に発生した放射性固体廃棄物（焼却灰等）は2022年5月31日現在、水処理二次廃棄物は2022年6月2日現在の保管量及び保管容量である。
　　尚、瓦礫類、使用済保護衣等及び伐採木の下段に（　　）で記載している保管容量は、実施計画（2022年5月9日認可）に記載している保管容量である。
※２　屋外集積及びシート養生の瓦礫類、使用済保護衣等、並びに屋外集積の伐採木は、3ヶ月に1回。
※３　6月～9月は、1週間に3回。
※４　2022年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：1,167本、チャンネルボックス：9,818本、ヒューエルサポート：3本、中性子検出器：1,137本、その他（シュラウド切断片等）：193m^3。
※５　2022年3月末時点の保管量。内訳は、イオン交換樹脂：2,398m^3、造粒固化体：1,148m^3。
※６　2022年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：281本、チャンネルボックス：10,539本、ポイズンカーテン：173本、ヒューエルサポート：54本、中性子検出器：375本。
※７　廃棄物の処理・処分に必要となる、廃棄物の性状把握のため、汚染水、瓦礫類、伐採木及び立木について、放射能濃度分析を実施しており、今後も継続する。分析した試料の中には、C-14（半減期：約5.7×10^3年）、Ni-63（半減期：約1.0×10^2年）、Se-79（半減期：約1.1×10^6年）、Tc-99（半減期：約2.1×10^5年）、I-129（半減期：約1.6×10^7年）等が検出されているものがある。
※８　１～４号機廃棄物処理建屋等の水没や高線量の理由によりアクセスできないタンクについてはこの限りではない。
※９　アンダーラインの実施内容は、実施計画（2022年5月9日認可）に未記載。
※10　仮設集積しているのは、瓦礫類、伐採木、水処理二次廃棄物等であり、QJ-54・1F-R5-002 瓦礫等管理要領に基づき、ロープや柵等の区画を行い、立ち入りを制限する標識を掲示する措置を講じている。
※11　[　]は、当該の報告とその前月との差を示している。
※12　一部の値について端数処理で100m^{3}未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m^{3}未満の増減を微増・微減と示している。

無断複製･転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社

東京電力ホールディングス株式会社
2022年7月1日

ガレキの保管量の現状※1,2,3

保管形態	受入目安表面線量率(mSv/h)	エリア名称	保管容量	保管量	前回比	保管容量合計	保管量合計	2022年度末※4 想定保管量
屋外集積（～0.1mSv/h）	≦0.001	AA	36,400 m³	21,200 m³	+100 m³	266,300 m³	233,700 m³	271,900 m³
	≦0.005	A2	9,500 m³	― m³ ※5	― m³ ※5			
		J	6,300 m³	6,200 m³	0 m³			
	≦0.01	A1	4,300 m³	― m³ ※5	― m³ ※5			
		B	5,300 m³	5,300 m³	0 m³			
		C	31,000 m³	31,000 m³	0 m³			
	≦0.025	C	35,000 m³	33,700 m³	-1,200 m³			
	≦0.028	U	800 m³	700 m³	0 m³			
	≦0.1	C	1,000 m³	1,000 m³	0 m³			
		F2	6,400 m³	6,400 m³	0 m³			
		N	9,700 m³	9,600 m³	0 m³			
		O	44,100 m³	44,000 m³	0 m³			
		P1	62,700 m³	62,600 m³	+700 m³			
		V	6,000 m³	6,000 m³	0 m³			
		d	1,200 m³	1,200 m³	0 m³			
		e	6,700 m³	4,800 m³	-100 m³			
シート養生（～1mSv/h）	≦0.3	D	2,700 m³	2,600 m³	0 m³	50,700 m³	47,400 m³	77,100 m³
	≦1	E1	15,400 m³	14,700 m³	微減 m³			
		P2	6,700 m³	5,800 m³	微減 m³			
		W1	11,600 m³	10,500 m³	0 m³			
		W2	0 m³	0 m³	0 m³			
		X	7,900 m³	7,800 m³	0 m³			
		m	3,100 m³	3,000 m³	0 m³			
		n	3,300 m³	2,900 m³	+800 m³			
覆土式一時保管施設、容器収納（1mSv/h～30mSv/h）	≦10	F1	700 m³	200 m³	-100 m³	17,900 m³	16,800 m³	33,600 m³
		E2	1,200 m³	600 m³	微増 m³			
	≦30	L	16,000 m³	16,000 m³	0 m³			

仮設集積の管理状況※1,2

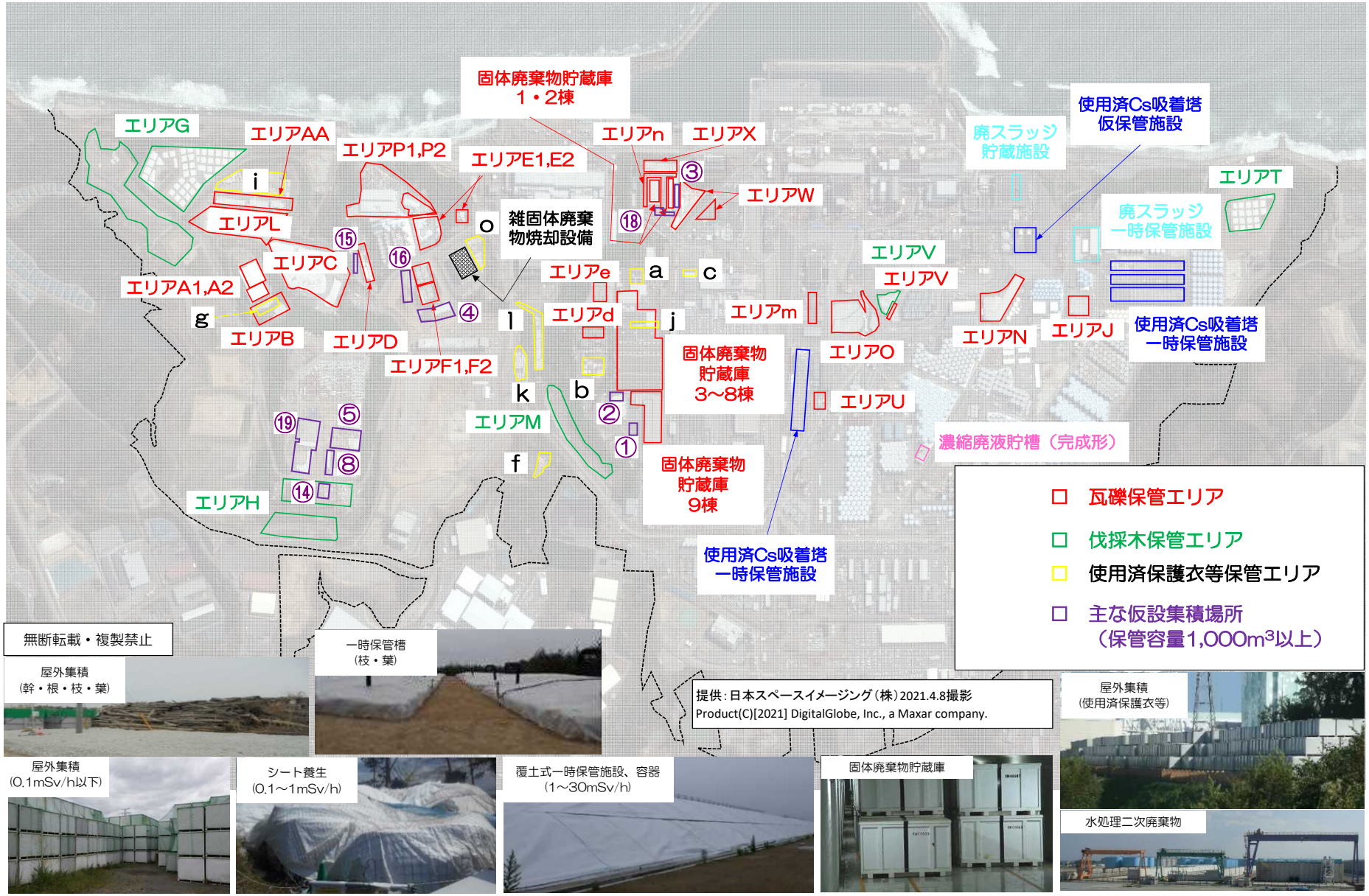
分類	場所	保管容量	保管量	前回比
仮設集積※6	①	3,000 m³	2,700 m³	0 m³
	②	3,000 m³	3,000 m³	0 m³
	③	2,000 m³	700 m³	-300 m³
	④	7,700 m³	7,600 m³	0 m³
	⑤	14,000 m³	13,000 m³	0 m³
	⑥			
	⑦			
	⑧	4,500 m³	3,400 m³	-100 m³
	⑨			
	⑩			
	⑪			
	⑫			
	⑬			
	⑭	2,200 m³	2,200 m³	0 m³
	⑮	2,000 m³	1,900 m³	微増 m³
	⑯	3,600 m³	2,600 m³	0 m³
	⑰			
	⑱	1,100 m³	0 m³	0 m³
	⑲	20,700 m³	14,500 m³	+400 m³

※1　瓦礫類、仮設集積物は2022年5月31日現在の保管量及び保管容量である。保管容量は運用上の上限を示している。
※2　一部の値について端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の増減を微増・微減と示している。
※3　各受入目安線量率において、固体廃棄物貯蔵庫の保管量は除いて記載。
※4　瓦礫類の想定保管量は、実施計画（2022年5月9日認可）の予測値を示している。
※5　エリアA1及びA2は低線量エリアとした（2020年1月6日認可）が、移行期間のため「ー」と記載。
※6　保管容量が1,000m³以上の仮設集積場所について記載。

無断複製・転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社

福島第一原子力発電所　固体廃棄物等保管エリアの構内配置図

東京電力ホールディングス株式会社
2022年7月1日



無断転載・複製禁止

福島第一原子力発電所
測定・確認用タンク（Ｋ４タンク群）
循環攪拌実証試験結果について

2022年7月1日

東京電力ホールディングス株式会社

1．循環撹拌実証試験の分析結果のご報告

これまでの報告事項

- タンク毎にばらつきのあったトリチウム濃度は，循環撹拌実証試験後の採取・分析により均一の効果を確認（トリチウム分析による不確かさ（±10%）の範囲内）。
- 保守的な条件でトレーサとしてリン酸を投入し，タンク水量の2倍の容量を循環した以降に循環ラインサンプリングポイントから採取した水に含まれるリン酸の平均濃度は，理論値とほぼ等しい結果を得た。
- 上記試験結果を踏まえて，測定・確認用タンクは下記の運用とする。
  - 設備構成は循環撹拌実証試験と同様とし，循環攪拌の運転時間は，放出開始の当面はタンク水量の2倍以上確保する運用とする(必要に応じトレーサを用いた検証を実施し，最適な運転時間を確認する)。
- また，核種濃度の挙動についても確認するため予備分析として主要7核種※についても分析を実施。
  - タンク中層から採取した水について，循環攪拌試験後に検出されたCs-137，Co-60，Sr-90及びI-129は，検出濃度が低く分析の不確かさによるばらつきが主となっていると考えられる結果となった。

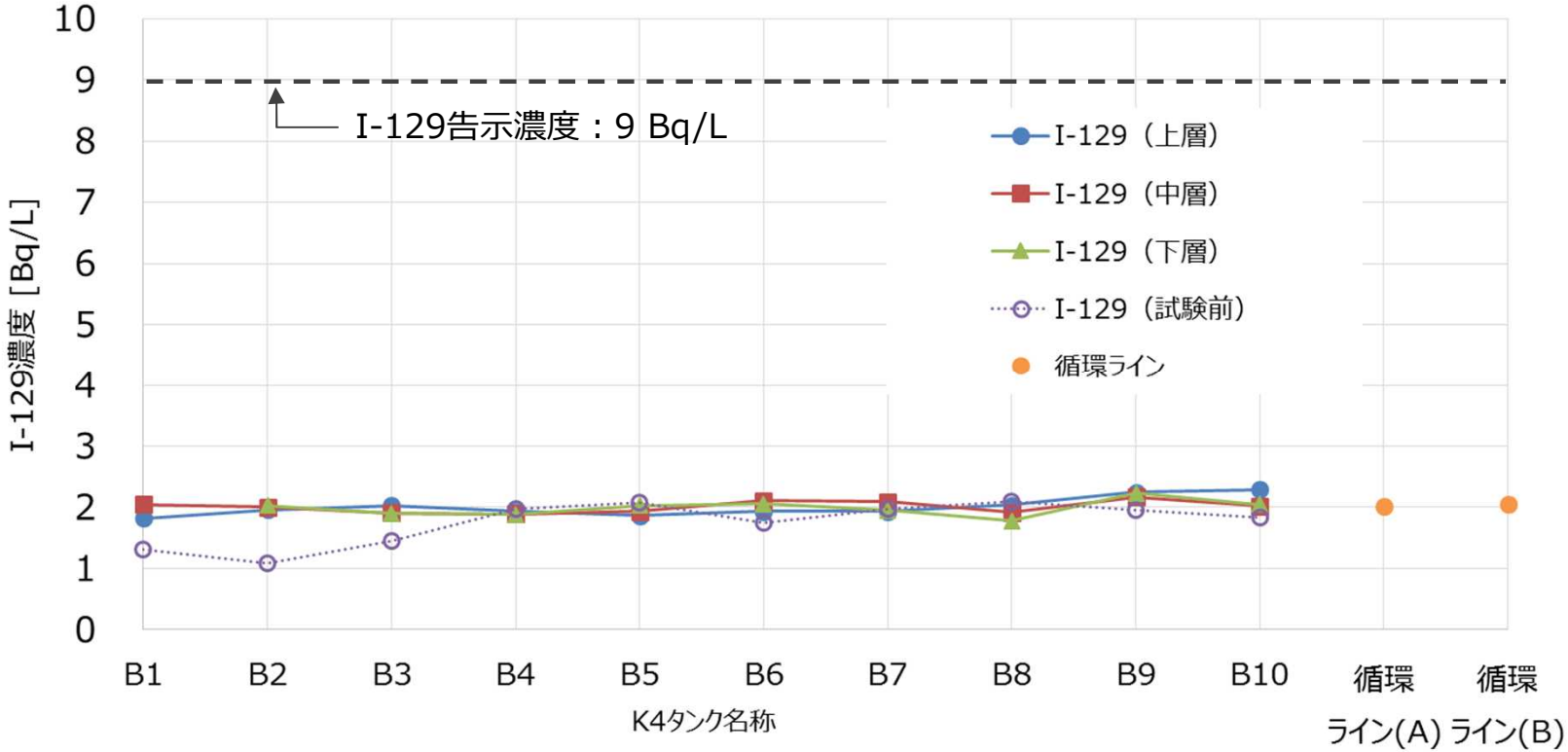
※主要７核種：Cs-134，Cs-137，Sr-90，I-129，Ru-106，Co-60，Sb-125

今回の報告事項

- 循環ラインサンプリングポイント，試験後のタンク上層，下層で採取した水についても主要7核種の分析結果が出たことから今回報告。
  - これまでの報告事項と同様に，循環攪拌試験後に検出されたCs-137，Co-60及びI-129は，検出濃度が低く分析の不確かさによるばらつきが主となっていると考えられる。
  - 主要7核種のうち，Cs-134，Ru-106，Sb-125，Sr-90の濃度は検出限界値未満。

2．分析結果（１）試験終了後タンク水サンプリング結果（I-129）

- 主要7核種のうちI-129の試験終了後の分析結果を示す。



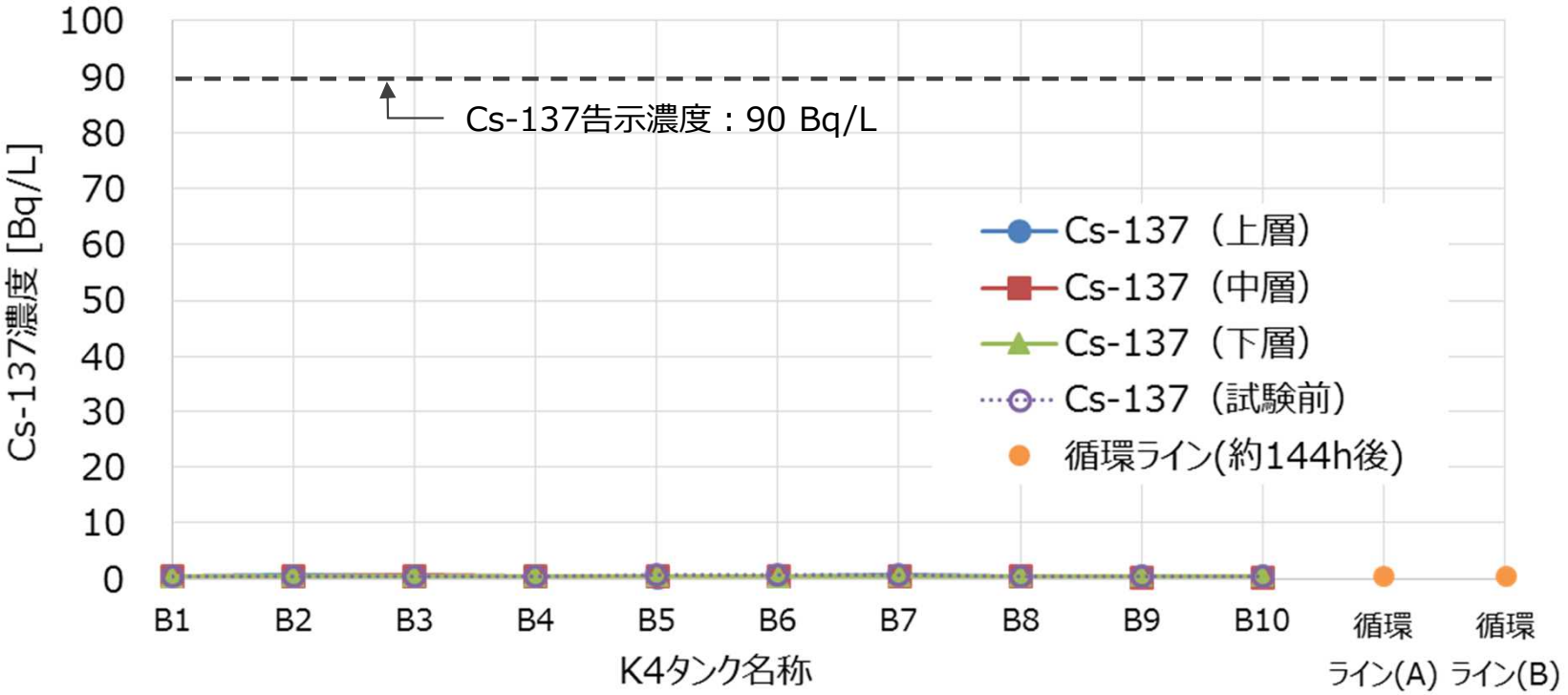
（単位はBq/L）

K4タンク名称		B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	B10	循環ライン(A)	循環ライン(B)	平均	標準偏差	相対標準偏差
試験前 I-129濃度※1 [Bq/L]		1.32	1.09	1.45	1.98	2.07	1.75	1.97	2.10	1.96	1.83	–	–	**1.75**	**0.33** (3.67%※2)	**18.8 %**
試験後 I-129 濃度 [Bq/L]	タンク上層(10m)	1.82	1.96	2.03	1.94	1.87	1.94	1.94	2.04	2.25	2.29	2.01	2.05	**2.00**	**0.12** (1.33%※2)	**5.8 %**
	タンク中層(5m)	2.05	2.00	1.91	1.89	1.93	2.11	2.09	1.92	2.17	2.02					
	タンク下層(1.5m)	<2.12	2.03	1.90	1.88	2.03	2.06	1.95	1.78	2.23	2.04					

※１： K4-B1タンクは2020/5/22，K4-B2~B10タンクは2021/6/9~6/22の期間でタンク中層からサンプリングを実施。
※２：告示濃度に対する割合

2．分析結果（2）試験終了後タンク水サンプリング結果（Cs-137）

- 主要7核種のうちCs-137の試験終了後の分析結果を示す。



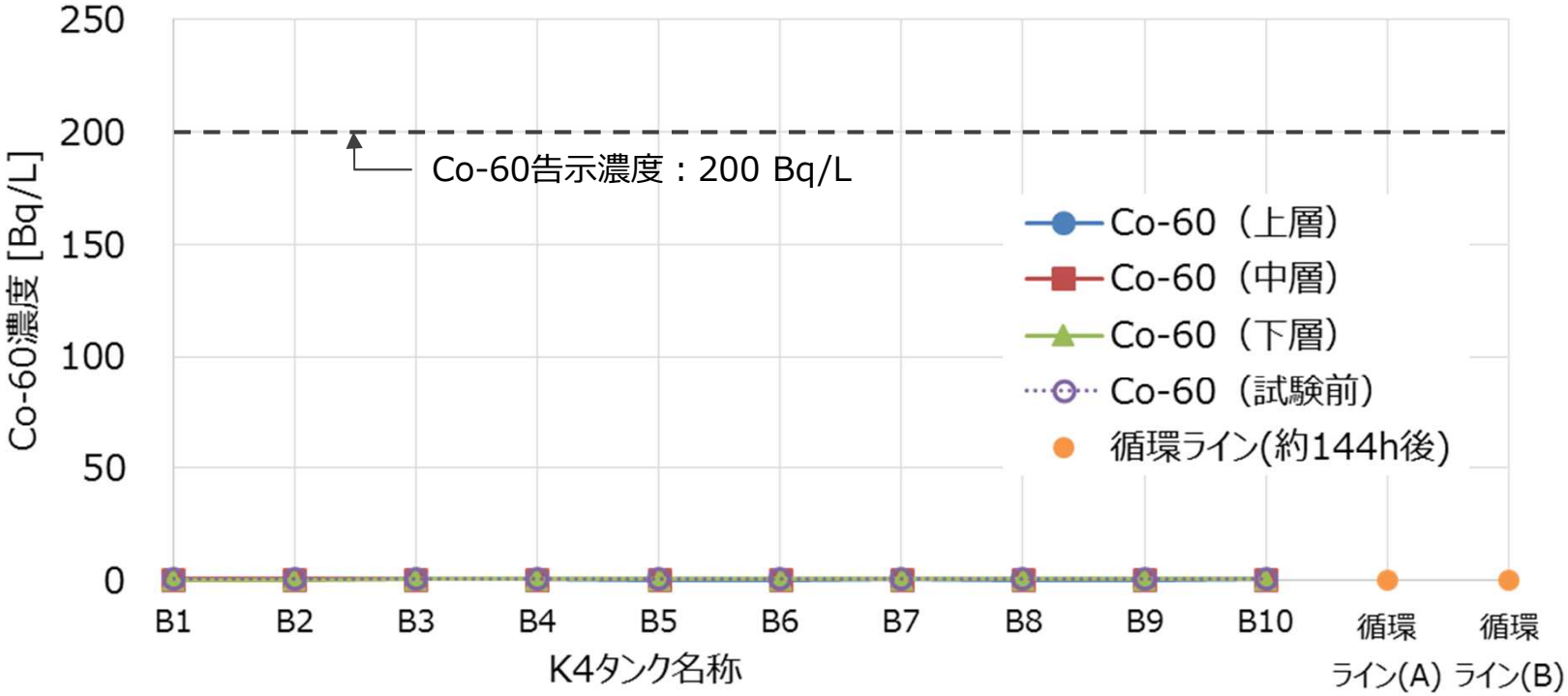
（単位はBq/L）

K4タンク名称		B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	B10	循環ライン(A)	循環ライン(B)	平均	標準偏差	相対標準偏差
試験前 Cs-137濃度※1 [Bq/L]		0.47	0.45	0.57	0.44	0.63	0.69	0.59	0.49	0.54	0.43	–	–	**0.53**	**0.08** (0.09%※2)	**15.8 %**
試験後 Cs-137 濃度 [Bq/L]	タンク上層(10m)	0.48	0.57	0.57	0.53	0.43	0.53	0.64	0.52	0.51	0.52	0.66	0.47	**0.50**	**0.05** (0.06%※2)	**10.4 %**
	タンク中層(5m)	0.50	0.50	0.63	0.51	0.55	0.56	0.45	0.46	0.42	0.44					
	タンク下層(1.5m)	0.42	0.46	0.51	0.50	0.51	0.42	0.50	0.53	0.46	0.50					

※1： K4-B1タンクは2020/5/22，K4-B2~B10タンクは2021/6/9~6/22の期間でタンク中層からサンプリングを実施。
※2：告示濃度に対する割合

2．分析結果（3）試験終了後タンク水サンプリング結果（Co-60）

- 主要7核種のうちCo-60の試験終了後の分析結果を示す。



（単位はBq/L）

K4タンク名称		B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	B10	循環ライン(A)	循環ライン(B)	平均	標準偏差	相対標準偏差
試験前 Co-60濃度※1 [Bq/L]		0.56	0.49	0.52	0.46	0.51	0.44	0.42	0.66	0.46	0.53	–	–	**0.51**	**0.06** (0.03%※2)	**12.8 %**
試験後 Co-60 濃度 [Bq/L]	タンク上層(10m)	0.32	0.53	0.43	0.36	0.27	0.29	0.31	0.25	0.31	0.52	0.42	0.43	**0.40**	**0.08** (0.04%※2)	**20.4 %**
	タンク中層(5m)	0.34	0.47	0.53	0.41	0.40	0.47	0.33	0.47	0.47	0.37					
	タンク下層(1.5m)	0.30	0.29	0.34	0.50	0.43	0.52	0.41	0.50	0.43	0.45					

※1： K4-B1タンクは2020/5/22，K4-B2~B10タンクは2021/6/9~6/22の期間でタンク中層からサンプリングを実施。
※2：告示濃度に対する割合

【参考】サンプルタンク（Ｋ４タンク群）循環撹拌実証試験の経緯

【循環撹拌実機試験の経緯】

- 放射性物質の環境への放出にあたっては、指針※により「放出系統の最終タンクでの試料採取を行うこと、代表試料を採取するための最終タンクには十分な攪拌が行える設備とすること」が求められている。

※発電用軽水型原子炉施設における放出放射性物質の測定に関する指針

- このため、ALPS処理水希釈放出設備には測定・確認用設備を設け、測定・確認用タンク内に撹拌装置を設けるとともに、10基連結した1群を循環ポンプで循環することにより、当該タンク群の水質の均一化を図る。

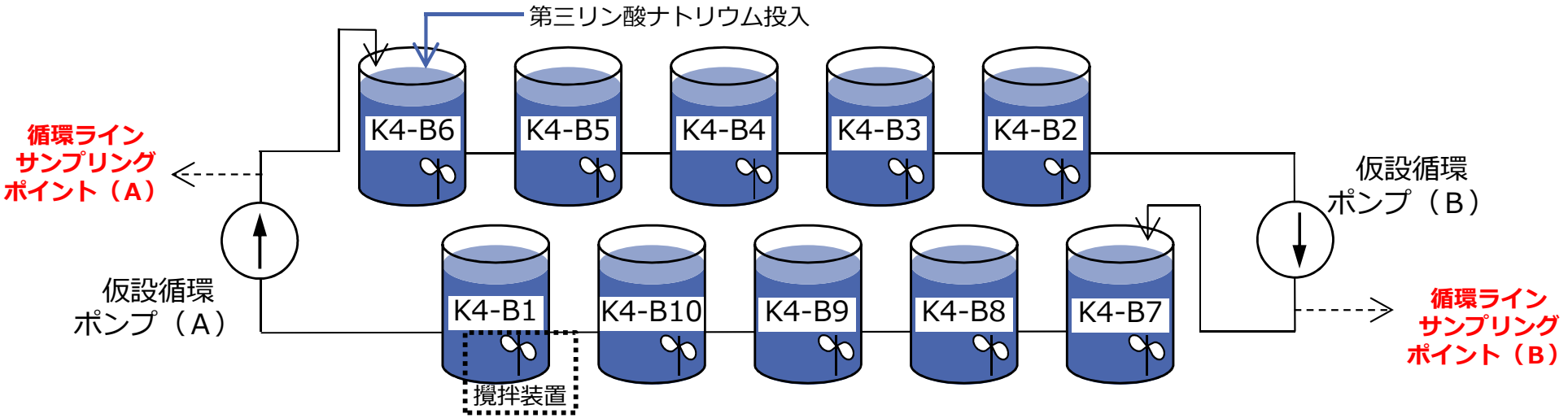
- 撹拌装置によるタンク1基の均一化の効果は2021年11月に確認している。

- 撹拌装置、循環ポンプを組み合わせたタンク10基を連結した循環撹拌実証試験を2022年2月に実施し、トレーサ（第三リン酸ナトリウム）およびトリチウムの分析結果から均一化の効果を確認している。

【参考】循環撹拌実証試験の詳細

実施日	2022年2月7日～2022年2月13日		
試験時間	約144時間		
対象タンク	Ｋ４－Ｂ群（１０基）		
試薬※1	第三リン酸ナトリウム※2（K4-B6タンク天板マンホールから投入）		
サンプリング	試験前	試験中※3	試験後
採取ポイント	K4-B1～B10 タンク中(5m)	循環ライン 2箇所	K4-B1～B10タンク 上(10m)・中(5m)・下(1.5m)
採取量	各1ﾘｯﾄﾙ，計10サンプル	各1ﾘｯﾄﾙ※5，計28サンプル	各6ﾘｯﾄﾙ，計30サンプル
分析対象	リン酸※4	リン酸※5	リン酸＋主要７核種※6＋トリチウム

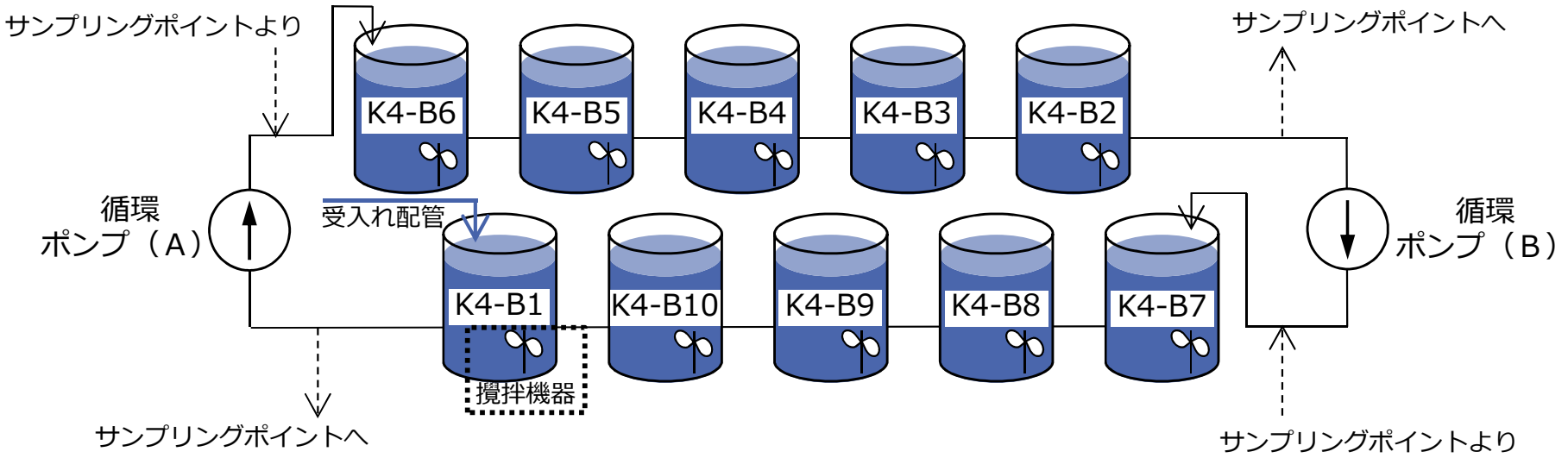
※1：タンク内に存在しない試薬をタンクに投入し、濃度分布を確認。
※2：第三リン酸ナトリウム投入量は福島県条例に定める排水基準（リン含有量「日間平均8ppm」）の1/100を目安とするため、環境への影響はない。
※3：試験開始～２４時間は６時間毎にサンプリング，２４時間～１４４時間は１２時間毎にサンプリングを実施する。
※4：主要７核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Ru-106,Co-60,Sb-125）＋トリチウムは初期値（スライド6p参照）を有しているため，分析対象としていない。
※5：6/72/144時間後のみ各6ﾘｯﾄﾙ採取し，分析対象としてリン酸の他に主要７核種＋トリチウムを加える。
※6：主要７核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Ru-106,Co-60,Sb-125）



【参考】分析結果まとめ（前回報告分）

- 今回の循環攪拌実証試験の結果を踏まえ、循環撹拌運転により代表試料を採取できると判断。
  - 本試験では、試験開始前にタンク1基（K4-B6）に第三リン酸ナトリウムを全量を投入した、非常に保守的な初期状態で開始したものの、タンク水量が2巡した以降に循環ラインサンプリングポイント（A），（B）から採取した水に含まれるリン酸の平均濃度が、理論値80ppbとほぼ等しい84.5ppbであったこと。
  - 一方、保守的な初期条件により、タンク内から採取した水に含まれるリン酸濃度の平均は86ppb、標準偏差9ppbとなり、若干のばらつきが確認されたものの、タンク内のトリチウム濃度の平均は1.51×10^5 Bq/L、標準偏差0.029×10^5 Bq/Lとなっており、循環撹拌運転により均一の効果が確認されていること。

- 今回の試験結果を踏まえて、設備構成は下記の通り試験と同様とし、循環攪攪拌の運転時間は、放出開始の当面はタンク水量の2巡以上確保する運用とする。
- なお、循環攪拌の運転時間は、必要に応じトレーサを用いた検証を実施し、最適な運転時間を確認する。



資料７

陸側遮水壁設備におけるブライン供給配管からの冷媒（ブライン）漏えいについての状況報告

TEPCO

2022年７月１日

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.　無断複製・転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社

(１)ブライン供給配管（本管）からのブライン漏えい事象について

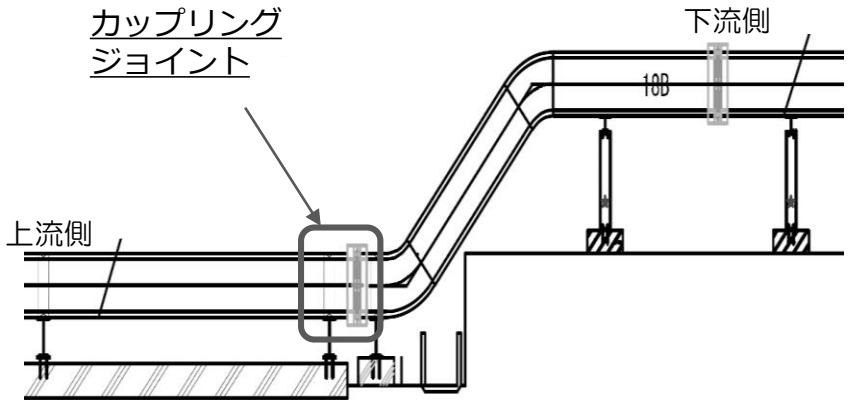
2022/06/15　汚染水処理対策委員会資料 抜粋

- 2022年2月15日に発生したブライン供給本管からの漏えい事象について、漏えい箇所がカップリングジョイント部であり、変形が確認された為、漏えいに至る要因について検討。

提供：日本スペースイメージング（株）2021.4.8
撮影Product(C)[2021]
DigitalGlobe、 Inc.、 a Maxarompany.

漏えい発生箇所

カップリングジョイント（外観）

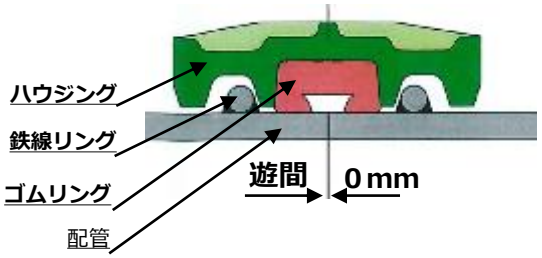


漏えい発生箇所（断面）

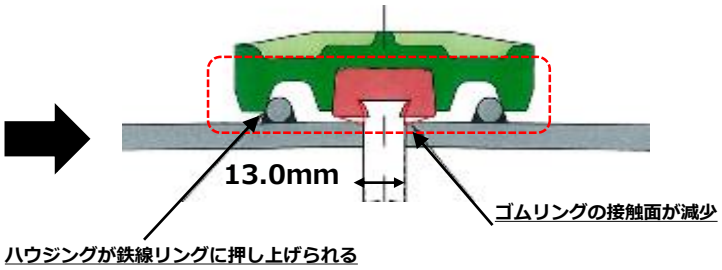
［カップリングジョイントとは］
ブライン供給配管に使用している継手であり、熱・振動等による配管の変形を吸収する役割を持つ。

（２）漏えい箇所の構造と漏えい再現試験について

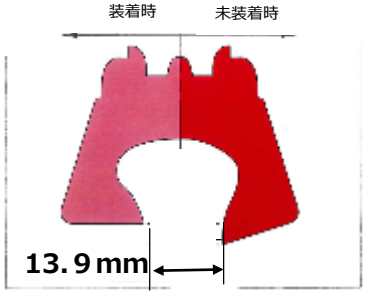
- 漏えい箇所であるカップリングジョイント部について流体をシールしているゴムリングを含め、ハウジング等の部材には経年劣化等による明確な損傷は認められなかった。
- 今回の漏えいは、カップリングジョイント部付近の配管の変位が、しきい値を超えたと想定。
- カップリングジョイントはこれまで事後保全を基本としており、漏えいに至るしきい値が明確でなかったため、構外にて漏えい再現試験を実施。



カップリングジョイント断面図（遊間0mm）



カップリングジョイント断面図（遊間13.0mm）



カップリングジョイント断面図（遊間13.9mm）
（イメージ図）

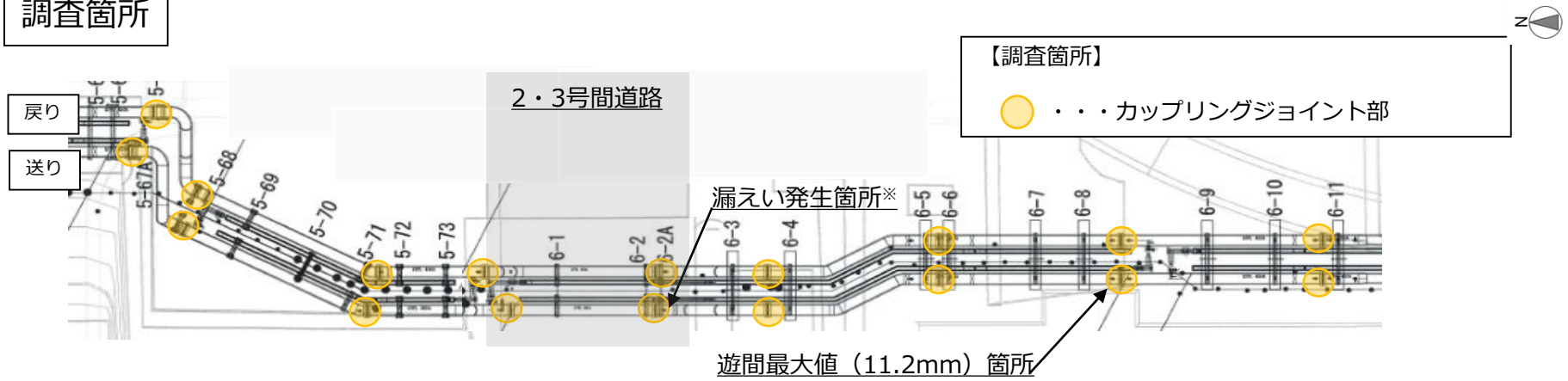
遊間（管と管の隙間）が13.9mmで、漏えいを確認。
遊間が13.0mmの段階で、ハウジングが鉄線リングに押し上げられ、
ゴムリングのつぶし代が浮き、シール面の減少により漏えいリスクが発生する。

※３回試験を実施し、漏えいを確認した値の最小値　※配管サイズが450Aの場合

（３）漏えい箇所周辺カップリングジョイント部の遊間計測について

- 今回の漏えい箇所であるカップリングジョイントを目視確認した結果、有意な変形は確認できなかったが本事象は本管からの漏えいであり、ブラインの漏えい量も多かったことから、影響の拡大を想定し、カップリングジョイントの漏えい確認試験結果との比較を行った。

調査箇所



※漏えい発生箇所についてはカップリングジョイント交換後のデータ

調査結果

まずは、漏えい箇所周辺のカップリングジョイントの遊間を調査（18箇所）した結果、最大値は、11.2mmであった。今回、調査箇所すべてにおいて、構造上漏洩リスクが発生する13mm未満であることを確認。

■ 状態監視保全について

- 漏えい箇所以外のエリアにて、カップリングジョイント部の遊間計測を実施し、計測データを踏まえ、エリア毎の状態監視保全の詳細（監視方法・頻度）について検討を行う。
- 今回漏えいしたカップリングジョイント部については、定期的な計測にて重点的に遊間の監視を行う。
- 漏えいに至るカップリングジョイント部の遊間を特定したことから、遊間に着目し、上記遊間計測と並行して、変位の進展を連続的に監視する方法（歪み等計測可能なパラメータに基づくもの）を考察・モックアップを行い、状態監視保全で得られたデータを踏まえ、予防保全の確立を目指している。

Eエリアフランジタンク
D2タンク内残水移送完了およびD1タンクスラッジ回収作業開始予定

2022年6月30日

東京電力ホールディングス株式会社

１．経緯

【報告済】
○EエリアD1/D2タンク内スラッジからの、建屋内滞留水並みのα核種の検出を踏まえ、漏えいリスク低減対策として、タンク内上澄み水をプロセス主建屋へ移送済
＜Ｄ２タンク＞
○引き続き、タンク底部から約10cmまでの残水をプロセス主建屋へ移送済

【今回報告事項】
＜D2タンク＞
- 6月3日までにタンク底部から10cm以下の残水をD1タンクへ移送完了

＜D1タンク＞
- スラッジ回収に必要な設備を設置（ダスト飛散防止・放射線防護含む）を進め、6月23日からスラッジ回収を開始
- 回収作業を実施し、8月頃までのスラッジ回収量や内部線量測定から回収完了時期の見通しを得て、報告予定

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

１－１．スラッジ回収（D1タンク：適用予定）

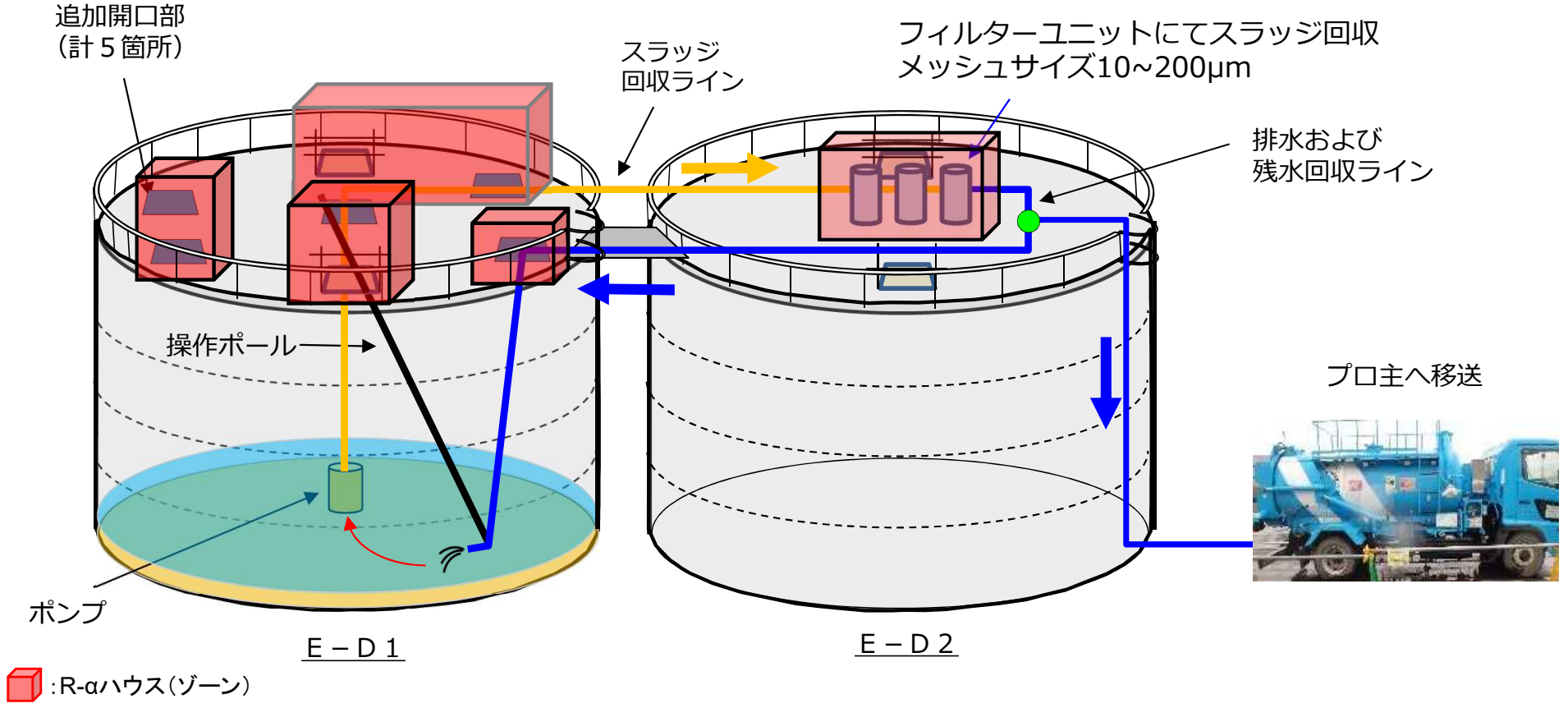
2022/3/31 チーム会合
事務局会議資料再掲

TEPCO

- **E-D1タンクのスラッジ回収については、下記の通りの方法で実施。**
- **α汚染への対策（内部取込み防止・拡散防止）を厳に実施し、慎重に進める。**

【スラッジ回収方法】

- タンク天板マンホールより水中ポンプを投入し、フィルターを介してスラッジを回収
- スラッジ回収後の水をタンク内に戻すホース出口をポールにより操作し、スラッジ回収の助力とする。
- 作業中はR-αハウス内のダスト濃度を連続監視する。
- R-αハウスの局所排風機出口HEPAフィルタ破損に備えて、出口に排気ダクト設置し内部に2段目のHEPAフィルタを取付け，外部へのダスト飛散防止を厳に図る。



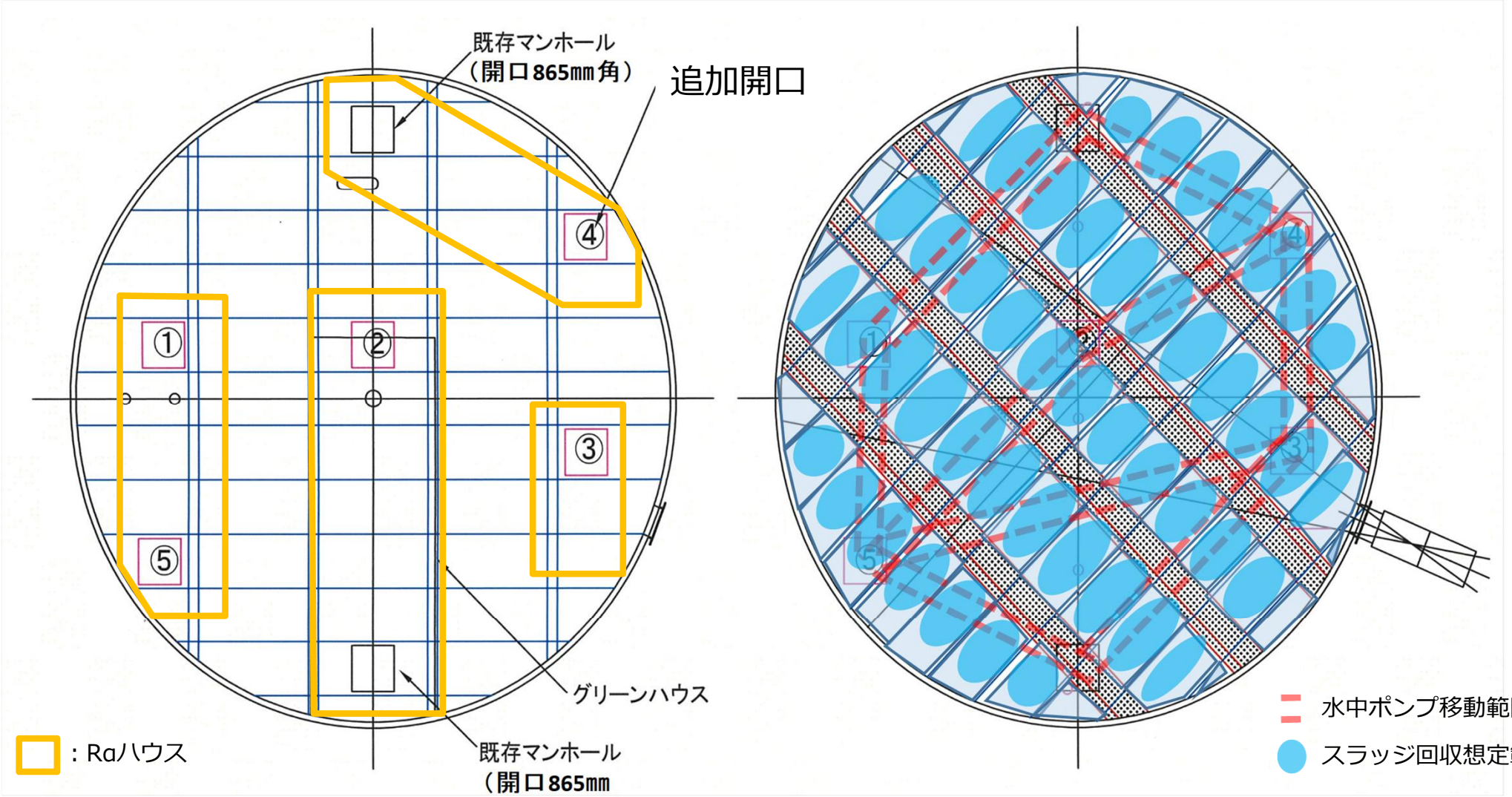
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

1－2．スラッジ回収（D1タンク：適用予定）

2022/3/31 チーム会合
事務局会議資料再掲

TEPCO

- 既存のマンホール（２ヶ所）に追加で５ヶ所の開口部を新たに設け、ポンプに綱を2本設置し、2か所の開口より綱を操作することにより、開口間の任意の場所にポンプ位置を変化させる等の方法により、底面全体のスラッジの回収を進めていく。
  （下図の追加開口箇所・数量は回収進捗後の必要に応じ変更）



タンク天板上　　タンク底板

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

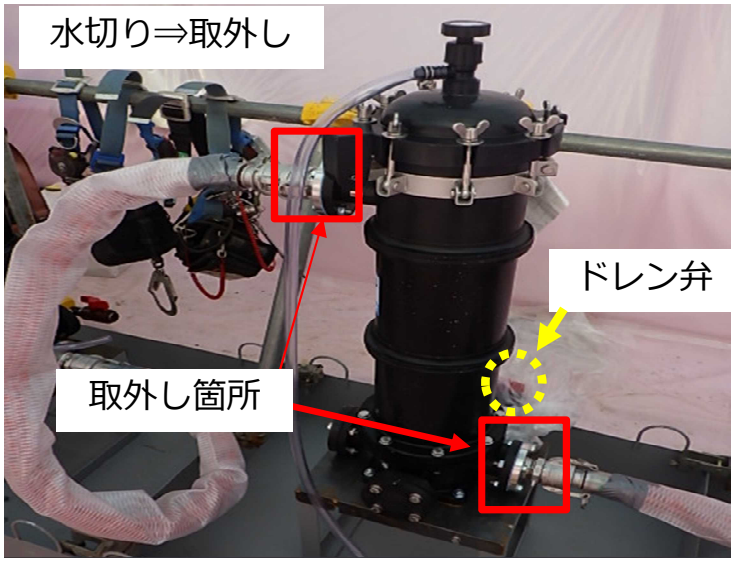
1－3．スラッジ回収（D1タンク：適用予定）

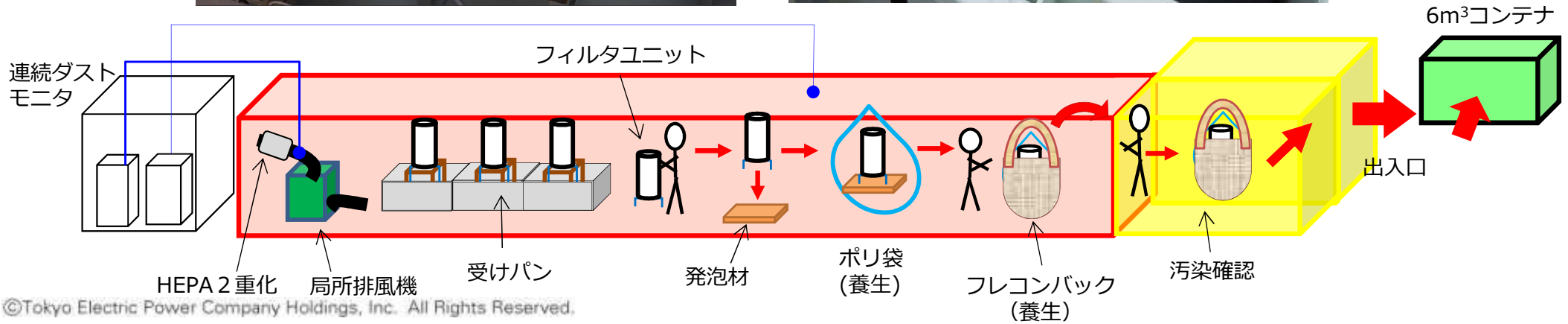
2022/3/31 チーム会合
事務局会議資料再掲

TEPCO

- **スラッジ回収用のフィルタユニットは金属性**
- **下記の通り、交換・コンテナ収納時も内部取込み防止・ダスト飛散抑制を厳に実施する。**
- **被ばく防護の対策も追加検討する。（詳細検討中）**

- R-αハウス内の局所排風機にてダストを吸引し、連続ダストモニタでハウス内のダスト濃度を測定する。局所排風機出口は、タンク天板上設置機と同様の2重HEPAフィルタ構造
- フィルタユニット取外しは，ドレン弁にて水切り後、２重養生、汚染確認を行い、ハウス外へ搬出後6m3コンテナへ収納する。





©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

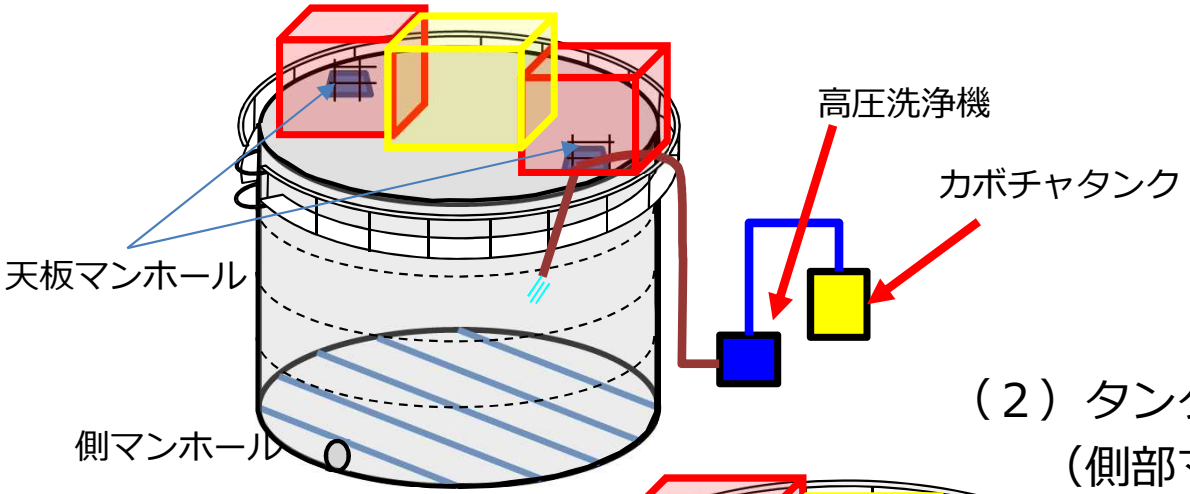
2－1．残水処理（D1・D2タンク：適用予定）

2022/3/31 チーム会合
事務局会議資料再掲

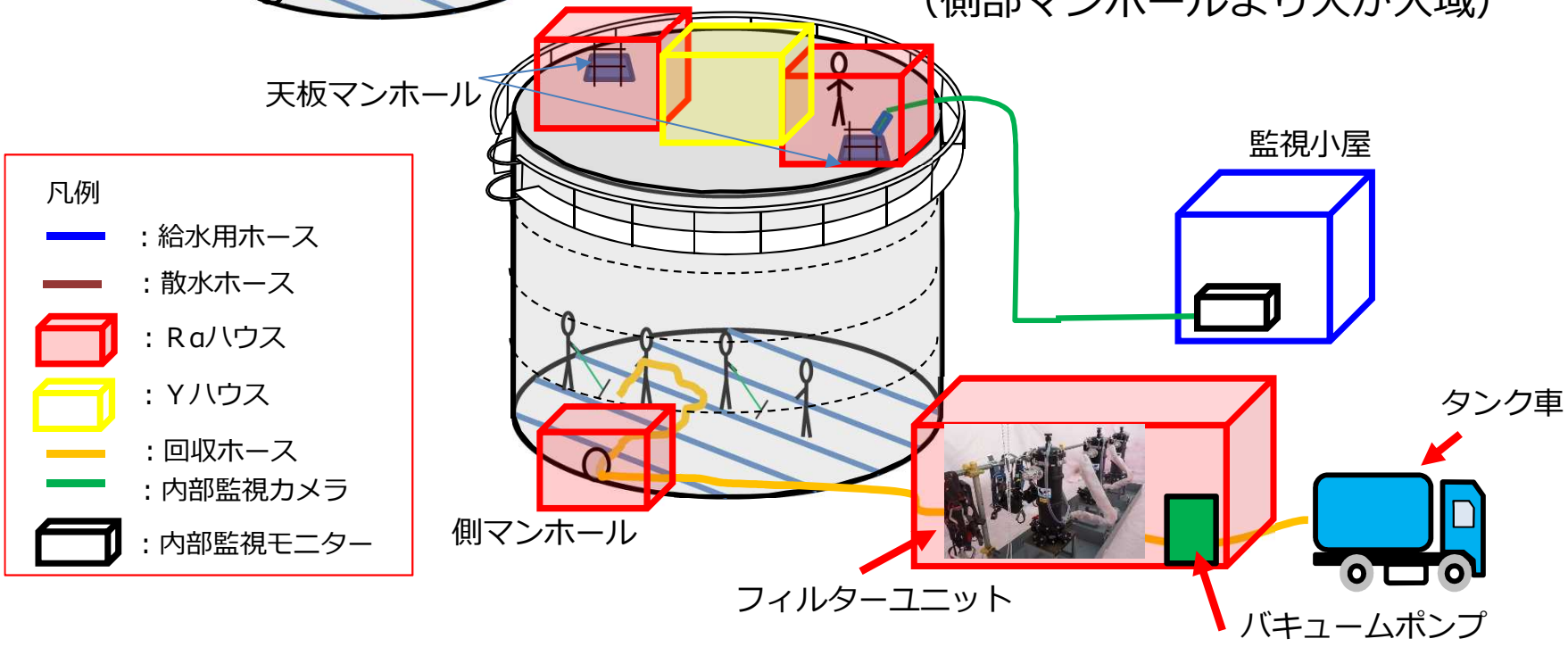
TEPCO

【残水回収】（D1・D2タンク：適用予定）
（１）タンク内洗浄（天板マンホールから散水ホースを投入し、タンク内壁面洗浄）

- **スラッジ回収後の内部線量が60.0mSv/h以下の場合、タンク内に作業員が入り、残水処理実施**



（２）タンク底部残水処理・クラッド回収・底部清掃
（側部マンホールより人が入域）



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

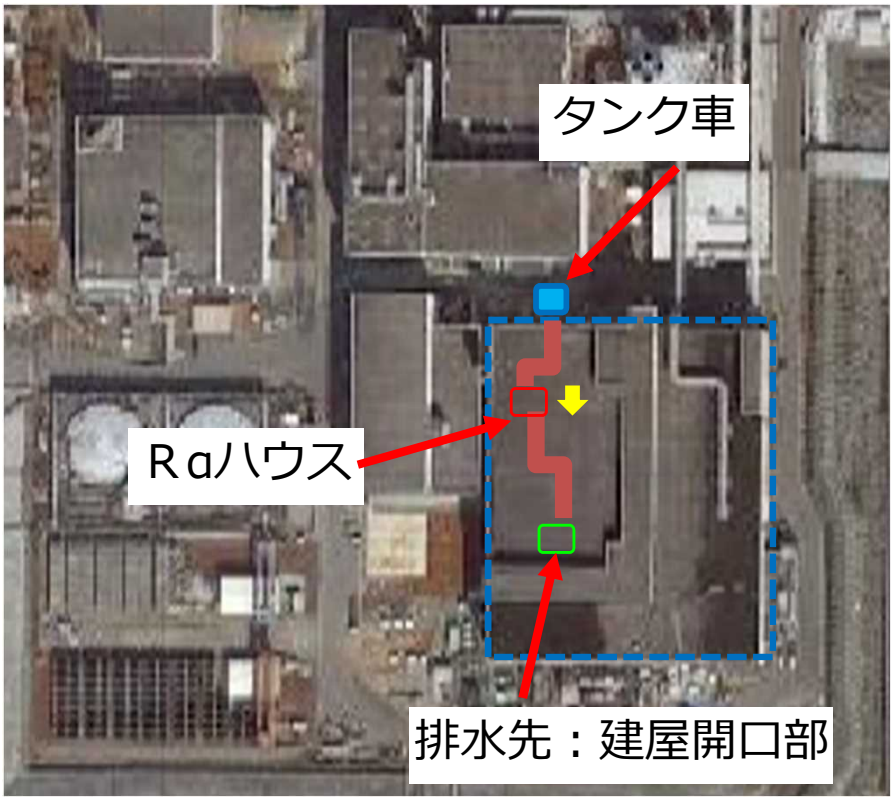
2－2．残水処理（D1・D2タンク：適用予定）

2022/3/31 チーム会合
事務局会議資料再掲

TEPCO

（3）排水作業
（タンク内の残水をタンク車へ移送後、構内運搬し、プロセス建屋開口部内へ排水を行う。）

- **タンク内の残水はプロセス主建屋へ移送する。**



北側水密扉前にタンク車停車

排水時のタンク車漏えい防止

建屋内のRαハウス

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

【参考】作業員の装備について

2022/3/31 チーム会合
事務局会議資料再掲

TEPCO

【作業員の装備】

タンク内部環境を踏まえ、通常のR装備に加えα核種・高β対策用の追加装備を着用し作業を行う。

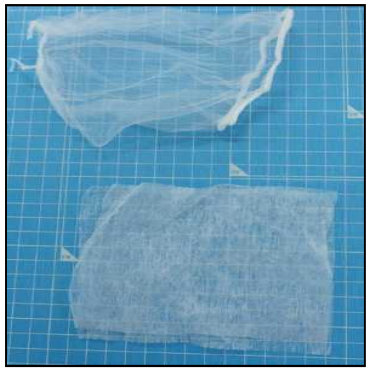
R装備：全面マスク，カバーオール，布手袋，ゴム手袋三重，靴下三重，
リングバッジ，ガラスバッジ，靴カバー，アノラック上下，R専用ヘルメット，R専用長靴

追加装備：

α核種内部取込み防止：全面マスクフィルタカバー，全面マスク用アノラック

高β線被ばく防護：水晶体ガラスバッジ，足ガラスバッジ，遮蔽スーツ（RST）※，フェイスガード

※遮蔽スーツはβ線の上昇がみられた場合に着用



フィルタカバー

フィルタカバー装着後

全面マスク用アノラック

遮蔽スーツ（β線低減）

水晶体ガラスバッジ

フェイスガード
(β線低減)

足ガラスバッジ

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

再利用タンクの汚染低減対策について

2022年6月30日

東京電力ホールディングス株式会社

1．経緯

溶接型タンクの再利用について

- Sr処理水等貯留タンクからALPS処理水等貯留タンクへ再利用を実施中。
- 除染せずに再利用したタンクについては、タンク内に残留する放射性物質の影響により告示濃度比 総和（7核種）が１を超える結果であった。今後、再利用するタンクについては、残留する放射性物質の影響を低減させる方法を検討していく。

【2020/7/30 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議にて説明】

告示濃度比総和を低く保つための対策方法

- 残水処理後のタンク内部状況ならびに貯留履歴より、再利用タンク群を3つの分類に大別し、各々について、対策及び検討を実施中。
  - 分類①：「タンク内スラッジ除去＋連結管・弁交換」後にALPS処理水を受入れ
  - 分類②：「タンク内スラッジ除去＋再塗装＋連結管・弁交換」後にALPS処理水を受入れ
  - **分類③：二次処理が必要な「処理途上水」を分類③タンクへ移送・受入れ（移送元タンクにALPS処理水を受入れ）**

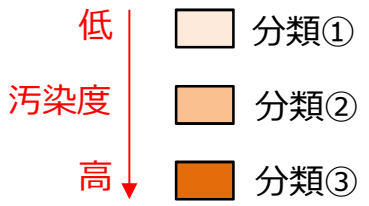
【2021/12/23 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議にて説明】

今回の報告事項

- この度、分類③のタンク群が満水となり、貯留水の分析をしたところ、**告示濃度比総和（7核種）が　１超過（処理途上水）となる結果**になった。
- 分類①・分類②のタンクと同様に後段のタンクの方が高い結果となった。
- **今後、海洋へ放出する前までに、告示濃度比総和（62核種+C-14）が１未満となるまで浄化処理を行う**。

2．再利用タンク一覧

- 分類①：「タンク内スラッジ除去＋連結管・弁交換」後「ALPS処理水」を受入れ
- 分類②：「タンク内スラッジ除去＋再塗装＋連結管・弁交換」後「ALPS処理水」を受入れ
- 分類③：未除染のまま「処理途上水」を受入れ

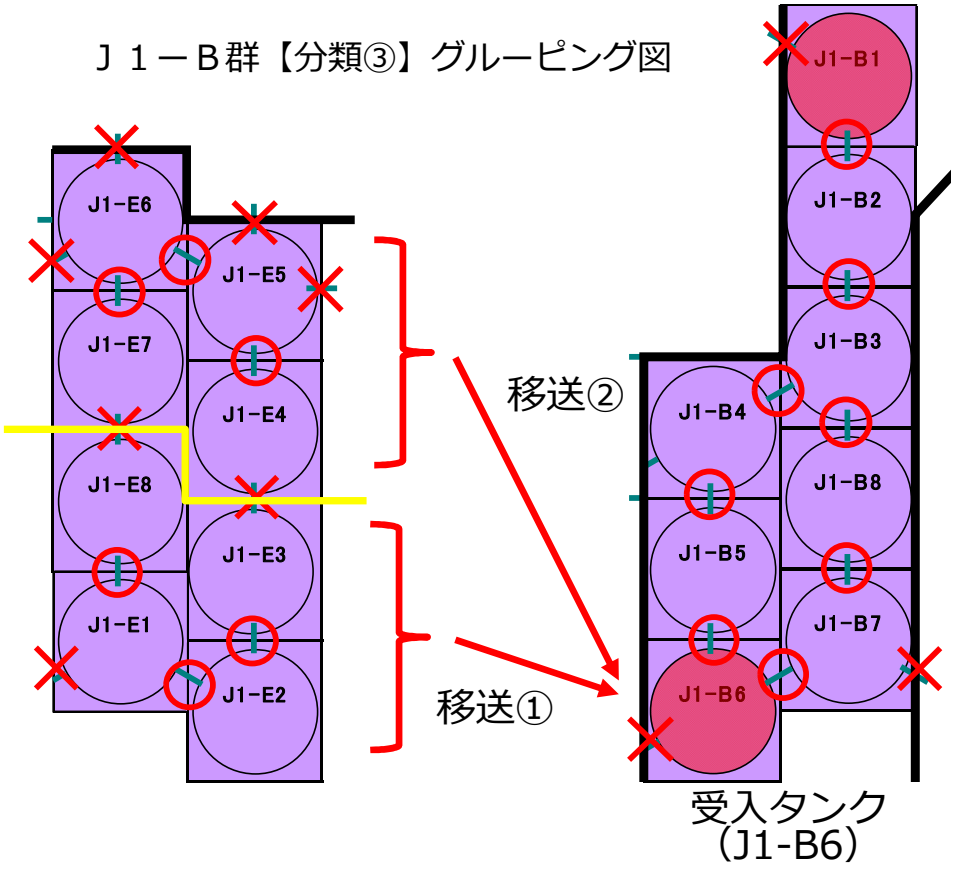


受入れ状態	再利用タンク群	タンク容量	タンク基数	対策状況	告示比総和（主要7核種）
受入れ済 26,000m3	G3-H群	6,400m³	6基	未対策	113.17
	K2-B群	6,200m³	6基		2.31
	K2-C群	6,200m³	6基		17.41
	K2-D群	7,200m³	7基		17.85
受入れ済 18,500m3	K1-C群	6,800m³	6基	対策済	0.13
	K1-D群	4,500m³	4基		0.17
	K2-A群	7,200m³	7基		1.37
受入れ済 11,200m3	G3-G群	11,200m³	11基	対策済	2.63
受入れ中 21,300m3	G3-F群	9,100m³	9基	対策済	–
	G3-E群	12,200m³	12基		–
受入れ中 20,400m3	H8-B群	11,800m³	11基		–
	J1-B群	8,600m³	8基		464.50

3．分類③タンク分析結果について

	タンク名称	核種毎の放射能濃度							告示濃度比総和※（主要７核種）[-]
		ｾｼｳﾑ(Cs)-137 告示濃度 **9.00E+01** [Bq/L]	ｾｼｳﾑ(Cs)-134 告示濃度 6.00E+01 [Bq/L]	ｺﾊﾞﾙﾄ(Co)-60 告示濃度 **2.00E+02** [Bq/L]	ｱﾝﾁﾓﾝ(Sb)-125 告示濃度 **8.00E+02** [Bq/L]	ﾙﾃﾆｳﾑ(Ru)-106 告示濃度 **1.00E+02** [Bq/L]	ｽﾄﾛﾝﾁｳﾑ(Sr)-90 告示濃度 **3.00E+01** [Bq/L]	ﾖｳ素(I)-129 告示濃度 9.00E+00 [Bq/L]	
J1-B群	B1	2.017E+01	＜5.034E-01	7.737E+00	1.688E+01	＜3.014E+00	1.383E+04	2.858E+01	**464.50**
	B6	1.814E+00	＜3.143E-01	3.192E+00	4.605E+00	＜2.099E+00	6.535E+03	3.489E+01	**221.78**

Ｊ１－Ｂ群【分類③】グルーピング図



● :サンプリング箇所

Ｊ１-Ｂ群は、Ｊ１－E群からの仮設移送にて受入

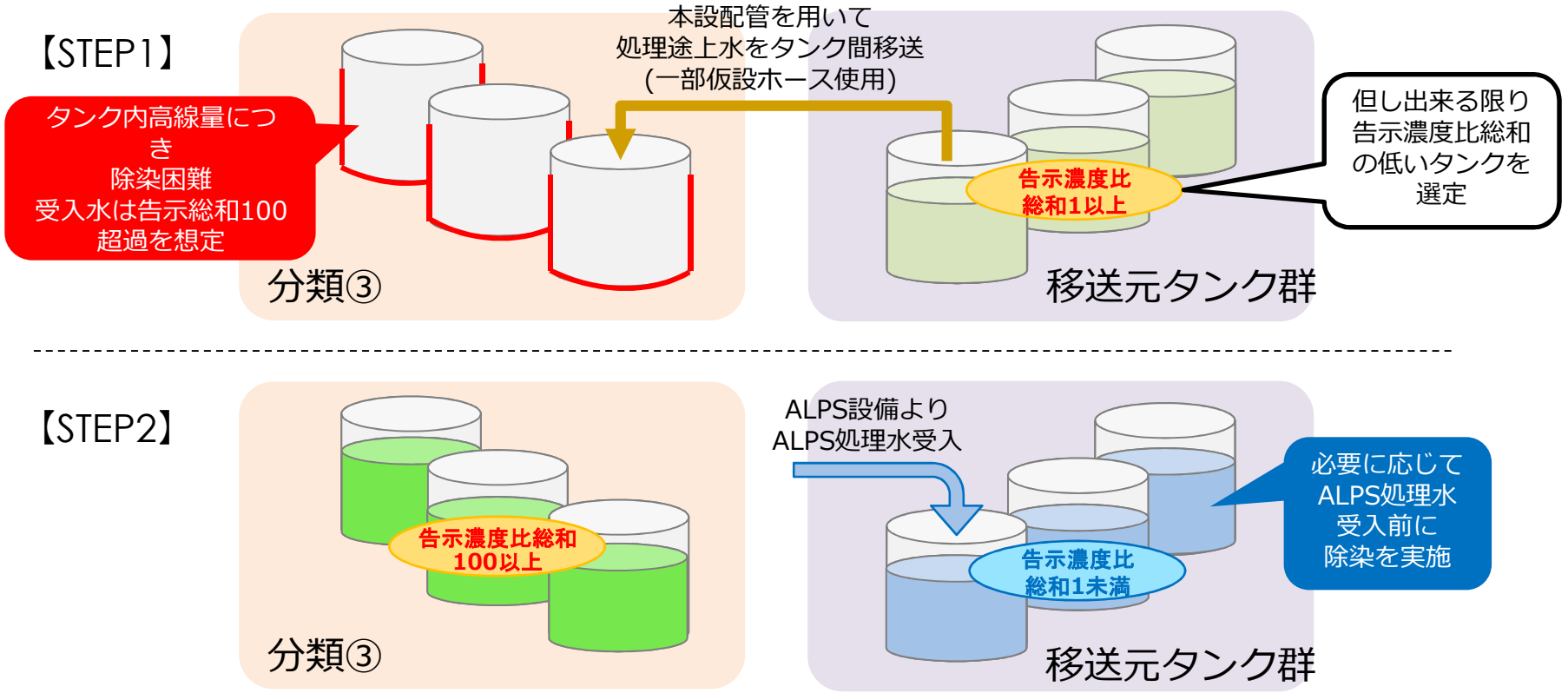
・移送①
　J1-E１,E2,E3,E8（4基）から
　J1-B6タンクへ仮設移送

・移送②
　J1-E4,E5,E6,E7（4基）から
　J1-B6タンクへ仮設移送

【参考】分類③タンクの告示濃度比総和を低く保つための対策方法

2021/12/23 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議資料再掲

- **STEP１**：告示濃度比総和1以上の水を貯留する「移送元タンク」から分類③タンク群へ水移送⇒分類③タンク群の告示濃度比総和は100超になると想定
- **STEP２**：空になった「移送元タンク」にALPS処理水（ALPS出口での主要７核種濃度0.05程度）を受入れ　⇒移送元タンク群の告示濃度比総和は1未満になると想定



【参考】分類③タンクの告示濃度比総和を低く保つための対策効果

2021/12/23 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議資料再掲

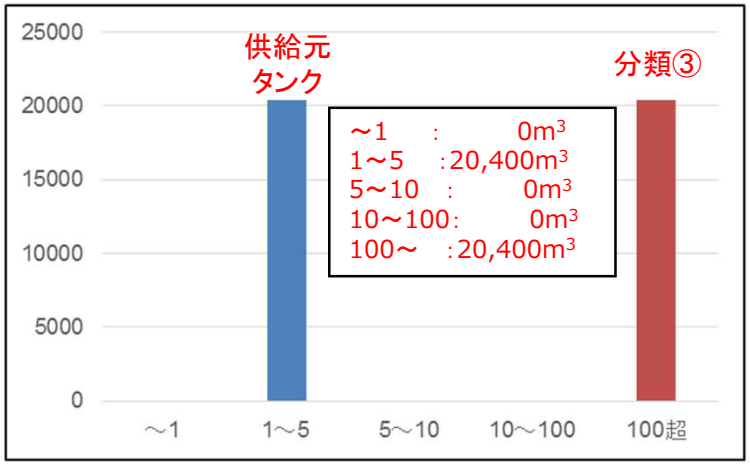
【移送元タンク情報】

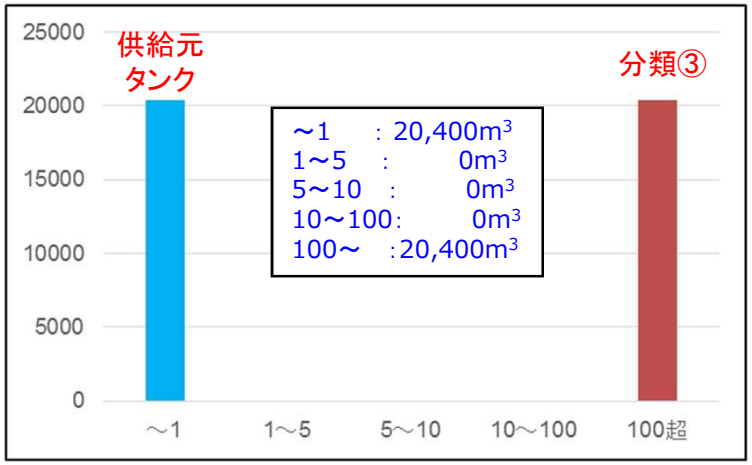
諸元 ＼ 候補		移送元タンク H1-C群	分類③ H8-B群
基数 [基]		11	11
告示総和	実測	1.68	–
再利用後 告示総和見込み		<1	>100

諸元 ＼ 候補		移送元タンク J1-E群	分類③ J1-B群
基数 [基]		8	8
告示総和	実測	3.17	–
再利用後 告示総和見込み		<1	>100

【対策効果】

＜対策未実施＞（分類③）



処理途上水
20,400m3
削減予定

＜対策実施＞（分類③）